

REPORT

**沖縄県における  
脊髄損傷者の  
生活状況に関する  
実態調査報告書  
Vol.4**



# 目 次

発刊のあいさつ	1
第4回沖縄県における脊髄損傷者の生活状況に関する実態調査実施要綱	2
第1章 調査の目的、方法、対象	3
第1節 目的	3
第2節 方法	3
第3節 対象	4
第2章 分析結果	4
I. 基礎データ	4
【Q1】あなたの年齢と性別を教えてください。	4
【Q2】あなたの年代を教えてください。	6
【Q3】あなたが脊髄損傷「以下脊損」になったのは何歳の時ですか。	7
【Q4】あなたの脊損の受傷部位は次のどこですか。	7
【Q5】Q4で「1.頸髄」と選択した方におたずねします。頸髄の受傷位置は次のどこですか。	8
【Q6】麻痺の分類について、次のどこですか。	8
【Q7】あなたの今の生活場所は次のどれですか。	8
【Q8】Q7で「在宅」と答えた方にお聞きします。あなたと一緒に生活している家族は次のどなたですか。	9
【Q9】あなたのお住まいの地域を市町村までお書きください。	10
II. 脊髄受傷時の状況	11
【Q10】あなたの脊損の原因は次のどれですか。	11
【Q11】Q10で「1.病気」と選択した方におたずねします。原因は次のどれですか。	12
【Q12】Q10で「2.スポーツ」と選択した方におたずねします。原因は次のどれですか。	12
【Q13】Q10で「3.交通事故」と選択した方におたずねします。原因は次のどれですか。	13
【Q14】Q10で「4.仕事」と選択した方におたずねします。原因は次のどれですか。	13
【Q15】Q10で「5.その他」と選択した方におたずねします。労災に認定されましたか。	14
【Q16】Q10で「5.その他」と選択した方におたずねします。原因は次のどれですか。	14
【Q17】あなたは治療・リハビリをどこで受けられましたか。	14
III. 身体状況、健康状況について	16
【Q18】今あなたは次の日常動作をどの程度できますか。	16
【Q19】「一部介助」「すべての介助」と選択した方におたずねします。日常生活の中で介護者はどなたですか。	18
【Q20】排尿について、おたずねします。排尿はどのような方法でしていますか。該当する箇所すべてに○をつけてください。	19
【Q21】「5.自己間欠導尿」と選択した方におたずねします。「自己間欠導尿」の一日のおよその数は何回ですか？	19
【Q22】尿失禁はどのぐらいありますか。該当する箇所1つに○をつけてください。	20
【Q23】「6.ない」以外を選択した方におたずねします。その対処方法を教えてください。	20
【Q24】排便について、おたずねします。排便の頻度はどのぐらいですか。該当する箇所1つに○をつけてください。	21
【Q25】排便はどのような方法でしていますか。該当する箇所すべてに○をつけてください。	21
【Q26】排便に要する平均時間はどのぐらいですか。	22
【Q27】排便を促す方法について、該当する箇所すべてに○をつけてください。	22
【Q28】便失禁はどのぐらいありますか。該当する番号1つに○をつけてください。	23
【Q29】あなたは身体のことでは悩んでいることはありますか。	23

【Q30】Q29であると答えた方におたずねします。体のことで特に悩んでいることは次のどれですか。……………	24
【Q31】Q29で「ある」と答えた方にお聞きします。悩み事を相談するために、精神科や心療内科等へ診察の経験がありますか。……………	25
【Q32】過去1年間で健康診断や人間ドックを受けたことがありますか。……………	25
【Q33】過去4年間で入院したことがありますか。それはいつ頃ですか。その入院日数と理由をお答えください。……………	26
【Q34】受傷後から現在まで、あなたの周囲に障害についてあなたの気持ちを理解し、あなたを励ましてくれた人はいましたか。最も該当する箇所すべてに○をつけてください。……………	27
IV. 移動と外出についてお聞きします	
【Q35】あなたの移動・外出の際の交通手段は何ですか。……………	28
【Q36】あなたは外出について、現在特に悩んでいることはありますか。……………	28
【Q37】Q36で「ある」と答えた方にお聞きします。外出について悩んでいた、不安なことは次のどれですか。……………	29
V. 就労状況について	
【Q38】あなたは脊損になってから仕事をしたことはありますか。……………	30
【Q39】今の仕事を見つけたきっかけは次のどれですか。……………	31
【Q40】Q38で「現在、雇用されている」と答えた方にお聞きします。現在の勤務日数と時間はどのくらいですか。……………	32
【Q41】Q38で「現在、雇用されている」と答えた方にお聞きします。現在の仕事の1ヵ月の収入は次のどれですか。……………	32
【Q42】Q38で「雇用されている」と答えた方にお聞きします。あなたは仕事について悩んでいることはありますか。……………	33
VI. あなたの住居について	
【Q43】あなたの住居は次のどれですか。……………	34
【Q44】あなたが脊損になってから自宅は生活しやすいように改修しましたか。……………	34
【Q45】Q44で「はい」と答えた方におたずねします。その改修の規模は次のどれですか。……………	35
【Q46】Q44で「はい」と答えた方におたずねします。改修するにあたって支援制度を利用しましたか。……………	35
【Q47】Q44で「いいえ」と答えた方におたずねします。その理由は次のどれですか。……………	36
【Q48】あなたは住宅について現在特に悩んでいることはありますか。……………	36
【Q49】Q48で「いいえ」と答えた方におたずねします。住宅について悩んでいることは次のどれですか。……………	36
VII. あなたの生活保障についてお聞きします……………	38
【Q50】現在のあなたの生活費は次のどの収入でまかなっていますか。……………	38
【Q51】あなたの年金、手当の種類はどれですか。……………	39
【Q52】現在のあなた自身の収入は賃金や年金も含め、全部で1ヵ月平均どれくらいですか。……………	39
VIII. 社会サービス利用等について……………	40
【Q53】現在、障害者総合支援法における福祉サービス並びに、介護保険法における福祉サービスについてお聞きします。障害者総合支援法や介護保険法における福祉サービスを受けたことがありますか。……………	40
【Q54】あなたの障害支援区分並びに要介護度区分はどれくらいですか。……………	40
【Q55】あなたの介護保険制度における介護度はどれですか。……………	41
IX. 楽しみや生きがいについてお聞きします……………	42
【Q56】あなたは現在スポーツを行っていますか。……………	42

【Q57】Q56で「1. している」と選択した方におたずねします。行っている活動について、該当するものすべてに○をつけてください。……………	42
【Q58】あなたは現在文芸活動を行っていますか。……………	43
【Q59】Q58で「1. している」と選択した方におたずねします。行っている活動について、該当するものすべてに○をつけてください。……………	43
【Q60】現在あなたは生活上の楽しみや生きがいを持っていますか。……………	44
【Q61】Q60で「1. ある」と選択した方におたずねします。生活上の楽しみや生きがいは次のどれですか。……………	44
【Q62】Q61で「パソコン・スマホ活用関連」と答えた方にお聞きします。1日のだいたいの利用時間をお答えください。……………	45
【Q63】Q61で「パソコン・スマホ活用関連」と答えた方にお聞きします。どのような目的でパソコン等のIT機器を使用していますか。……………	46
【Q64】Q61で「パソコン・スマホ活用関連」と答えた方にお聞きします。パソコンやスマホを操作するときに、どのような方法で操作していますか。……………	46
【Q65】現在テレワーク(在宅や移動先で働くこと)の働き方が広がっていますが、関心がありますか。……………	47
【Q66】Q65で「関心がある」と選択した方におたずねします。どのような関心がありますか。……………	48
【Q67】Q65で「関心がない」と選択した方におたずねします。関心がない理由は次のどれですか。……………	48
【Q68】昨今、障害者福祉施策も大きく変わろうとしています。そこで今日の行政に期待することは何ですか。……………	49
【Q69】その他、沖縄協の会活動についての要望や、この調査についてのご意見等がありましたらお書きください。……………	51

### 第3章 調査結果まとめと今後の課題

1. 今回の調査の特徴……………	52
2. 調査結果からみた特徴……………	52
3. まとめ……………	53

### 参考資料

1. 2019 脊髄損傷者実態調査票……………	57
2. 沖縄県の脊髄損傷者の生活状況に関する実態調査の手引き……………	69



## 発刊のあいさつ

NPO 法人沖縄県脊髄損傷者協会

理事長 仲根 建作

本調査は今回で第4回となり、前回の2009年から10年後での実施となりました。10年の節目での調査によってせき損者の時代の変遷による生活実態の困難ニーズ等課題を浮き彫りにし、支援策の方向性、沖脊協活動に生かす目的で実施しております。

過去の実態調査から、当初は沖縄県における脊髄損傷者リハビリテーション体制が整っていないことによる、医療体制の困難ニーズが主な声でしたが、社会参加促進が図られ福祉サービスの充実、パラリンピック等障がい者スポーツの広がりなどによって、近年では余暇活動や仕事の希望などの社会参加志向の傾向が表れてきています。

しかしながら、せき損者にとって肝心の「リハビリテーション体制」は医療制度改革等によるリハビリテーション期間の制限が導入されたことによって、望ましいリハビリテーションカリキュラムが受けられていない実態も出てきています。

また、重度の頸髄損傷の方々が「一人暮らし」を選択する傾向も増加してきています。その背景には障がい者自立支援法等の福祉サービスの充実化が大きく寄与していることは確かです。在宅で福祉サービスを受けながら在宅でパソコンを活用した仕事(テレワーク)という働き方もあるなど選択できる就労が着実に根付いていることも喜ばしい限りです。

一方では、調査回答者が前回調査に比較して微減となりました。沖脊協会員以外の方々も多くいる中で、沖脊協の帰属性が希薄化していることも回答率からみて大きな課題となっていますので、調査結果から沖脊協活動の更なる活性化のための事業創出を図れるように取り組みたいと存じます。

今回も個人情報への壁がありましたが、新たに「WEB 回答フォーム」を設定し記入し易いように取り組みし好評を得ましたので、今後もせき損者の実態把握や相談対応に活かせるようにいたします。

最後に、調査活動にご協力いただきました、リハビリテーション病院等関係各位のご指導ご鞭撻により調査事業が円滑に実施されたことについて厚く御礼申し上げますとともに今後ともご支援ご協力賜りますようお願いし、本調査報告発刊のごあいさつといたします。

ありがとうございました。

2020年3月

## 第 4 回沖縄県における脊髄損傷者の生活状況に関する実態調査実施要綱

- 1 目的 脊髄損傷者は、発生に交通事故、労働災害、疾病等の社会的要因が大きく関与するのみでなく、その生活に社会的諸条件の整備を不可欠とする障害です。また、県内にはケアやアドバイスが必要にもかかわらず在宅で悶々と不安な生活を強いられている脊髄損傷者が多くいると思われます。そこで、沖縄県の脊髄損傷者の生活状況に関する実態調査を行い、調査をとおして関係機関が脊損者への理解を促し、それを取り巻く人々のネットワークづくりや脊損者の社会参加を促進させることを目的に実施します。
- 2 実施主体 特定非営利活動法人沖縄脊髄損傷者協会
- 3 実施期間 令和元年5月1日～令和2年2月 28 日
- 4 調査協力 本調査の実施にあたっては、行政、医療機関等脊髄損傷者に関連のある機関を網羅した協力体制のもと行います。
- 5 調査対象 県内の身体障害者手帳を有する脊髄損傷者で次の者を対象とする  
(回答目標 150 名)  
ア. 本会会員  
イ. その他関係機関からの情報提供者
- 6 調査方法 調査票を作成し本会会員及びその他の関係機関から情報を提供していただいた脊損者の調査協力依頼(郵送)による沖縄協ホームページに設定する WEB アンケートに記入していただくとともに対象者宅訪問し本人からの聞き取り調査とする。
- 7 調査工程 6 / 末 : 関係機関への協力依頼  
7 / 初 : 調査票の配布・郵送開始  
10 / 末 : 第 1 次調査票回答期限  
12 / 末 : 第 2 次回答期限  
2 / 末 : 調査報告
- 8 問い合わせ 沖縄脊髄損傷者協会事務局 担当: 仲根、小倉、砂川  
〒901-2121 浦添市内間 5-4-3 ハウジングシーサー101  
Tel: (098)961-6715 Fax: (098)961-6716  
E-mail: [office@okisekikyo.com](mailto:office@okisekikyo.com)

# 第1章 調査の目的、方法、対象

## 第1節 目的

脊髄損傷は交通事故、労働災害、スポーツ事故等の社会的要因が大きく関与するのみでなく、その生活に社会的諸条件の整備を不可欠とする障害である。近年では障害の程度によっては医療体制や社会的諸条件の整備により社会生活がほぼ可能な状態になってはきてはいるが、精神的ケアや専門的で適切なアドバイスが必要であるにもかかわらず在宅で悶々と不安な生活を強いられている脊損者も多くいると思われまます。

そこで、平成4年度、平成11年度、平成21年度に実施した過去3回の実態調査を踏まえ、現在までの時間経過において過去明らかになった諸問題や課題等が解決されているのか否かを検証するとともに、調査をとおして関係機関へ脊損者の理解を促します。そして、取り巻く人々のネットワークづくりや脊損者の社会参加を促進させることと解決すべき新たな問題を把握する為に、第3回「沖縄県の脊髄損傷者の生活状況に関する実態調査」を行った。

## 第2節 方法

主たる方法は2019年10月から2020年2月末までの期間に調査票を対象者に郵送し、回答を記入してもらった上で沖脊協宛てに郵送してもらう方法と共に、郵送での回答内容の不備等含めて、調査員による対面調査も実施した。

もう一つは、離島の方や四肢障がいによる記入が難しい頸損等の方に配慮することを目的に沖脊協のホームページに調査専用の「WEB 回答フォーム」を構築し、パソコン上で記入する方法を用いました。また、必要に応じて調査票PDFをWEB上からダウンロードできるようにし、IT活用を推進しました。

## 第3節 対象及び回答状況

今回の実態調査も前回同様、沖縄県脊髄損傷者協会を実施主体とし、沖縄県脊髄損傷者協会が把握している県内在住の脊髄損傷者、および身体障害者手帳の閲覧によって把握できた脊髄損傷者を加え、さらに障がい者支援施設やリハビリテーション病院との入所や患者さんといった沖脊協会員以外も加え220人分の調査票を送付又は配布をした。

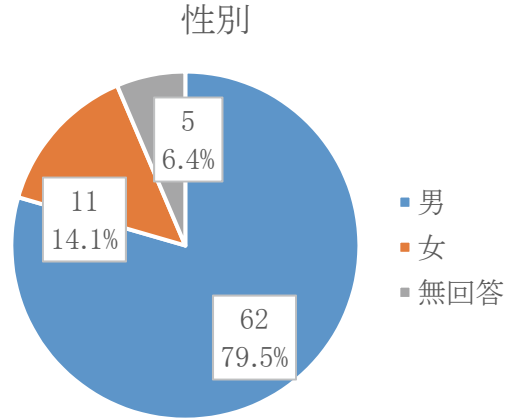
今回の有効回答者は78人で、有効回答率は34.5%だった。前回調査の回答者が81名(男性68人、女性13人)、有効回答率36.5%であったことと比較し、今回の有効回答率は大きな差はなかったが前回に続き低調だった。回答方法については、従来の調査用紙郵送に加えWEBでの調査回答フォーム設定したが、かかわりの希薄化が見られた。

## 第2章 分析結果

### I. 基礎データ

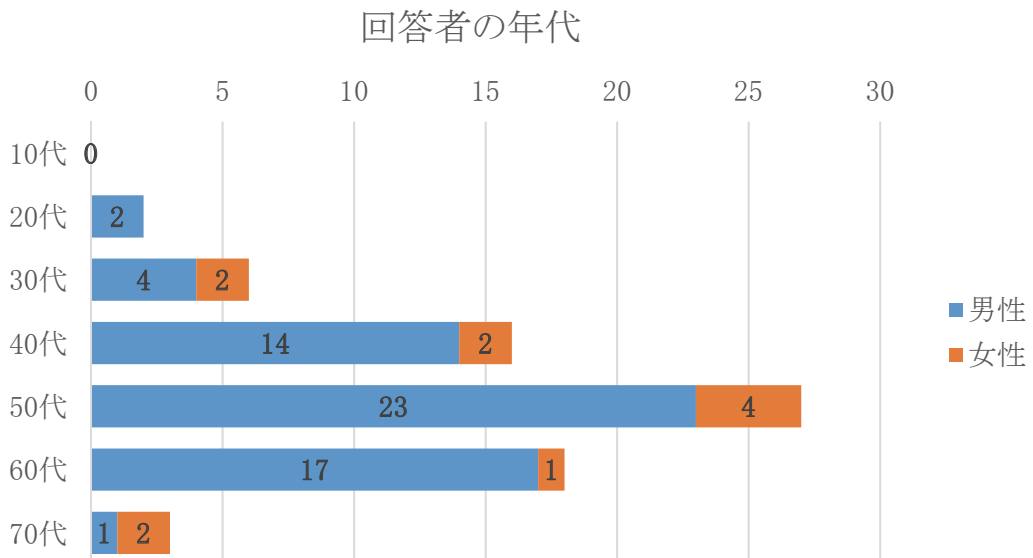
【Q1】 あなたの年齢と性別を教えてください。

回答	人数	割合
男	62	79.5%
女	11	14.1%
無回答	5	6.4%
合計	78	100.0%



今回の回答者78人のうち、男性は62人(79.5%)、女性11人(14.1%)だった。前回調査においては、男性63人(84.0%)、女性13人(16.0%)という結果だったので、男女比に大きな変化は見られなかった。

【Q2】 あなたの年代を教えてください。

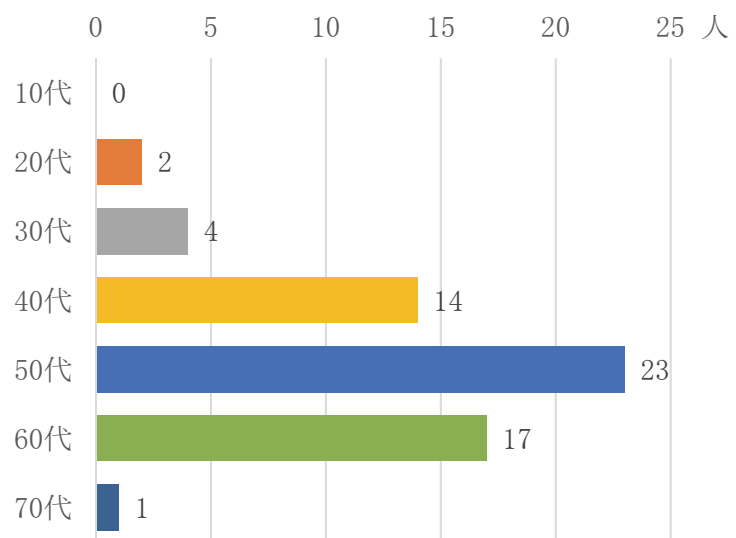




### 男性

回答	人数	割合
10代未満	0	0.0%
10代	0	0.0%
20代	2	3.2%
30代	4	6.5%
40代	14	22.6%
50代	23	37.1%
60代	17	27.4%
70代	1	1.6%
80代	1	1.6%
90代	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	62	100.0%

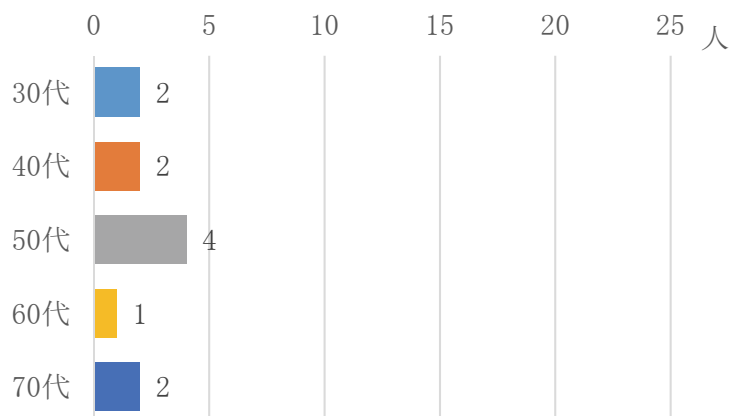
現在の年代【男性】



### 女性

回答	人数	割合
10代未満	0	0.0%
10代	0	0.0%
20代	0	0.0%
30代	2	18.2%
40代	2	18.2%
50代	4	36.4%
60代	1	9.1%
70代	2	18.2%
80代	0	0.0%
90代	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	11	100.0%

現在の年代【女性】

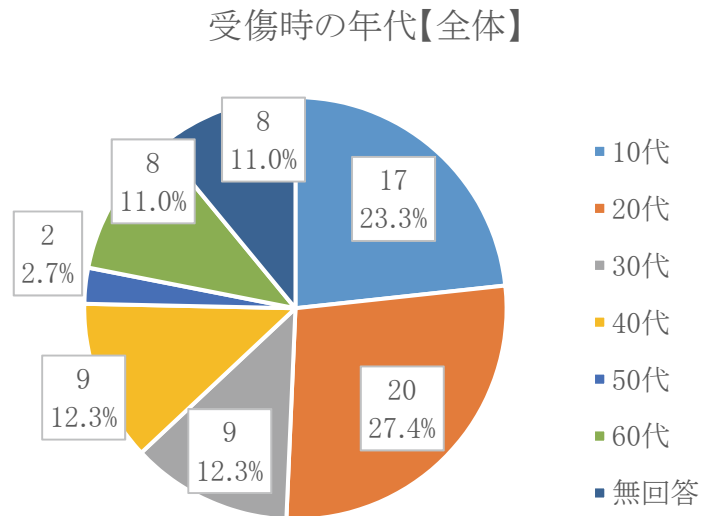


男性の年齢構成は、50代が最も多く23人(37.1%)であった。次いで、60代17人(27.4%)、40代14人(22.6%)、30代4人(6.5%)と続いた。70代と80代が各1人。10年前の前回調査でも50代が最も多く23人(全体の33.8%)、次が40代の16人(23.5%)という結果が出ていた。

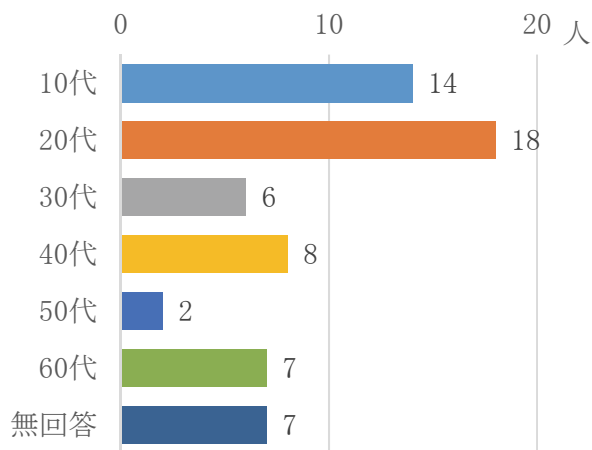
17年前の前前回の調査では30代が最も多かった(41.7%)ことや女性では前回調査で20代が2人いたが今回調査ではいなかった。このことから沖縄県脊髄損傷者協会の会員が着実に高齢化していることがわかる。新規会員の加入が少ないことも影響していると推測できる。

【Q3】 あなたが脊髄損傷「以下脊損」になったのは何歳の時ですか。

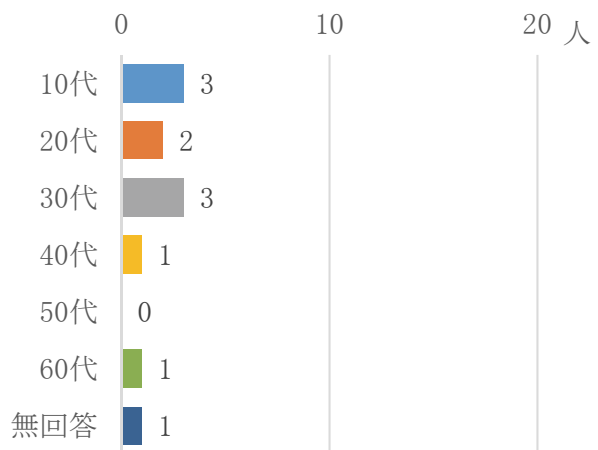
年代	人数	割合
10代未満	0	0.0%
10代	17	21.8%
20代	21	26.9%
30代	9	11.5%
40代	9	11.5%
50代	2	2.6%
60代	8	10.3%
70代	0	0.0%
80代	0	0.0%
90代	0	0.0%
無回答	12	15.4%
合計	78	100.0%



発症した年代【男性】



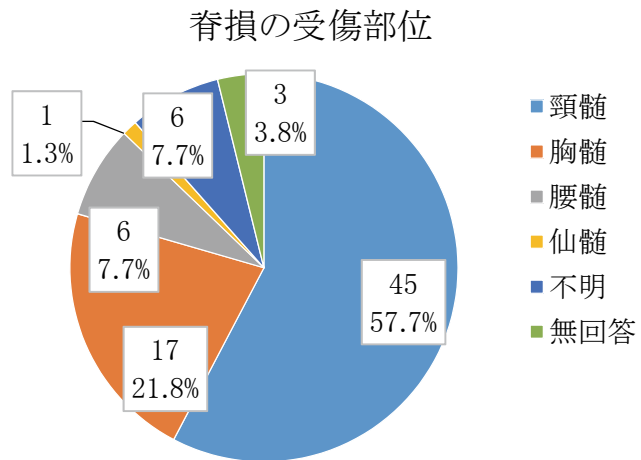
発症した年代【女性】



平均年齢 49.2 歳という結果になった。男女とも受傷時の年齢は 10 代、20 代がトップであった。前回調査と比較しても変化は見られない。男性では 60 代が 10 人(12.8%)で、前回調査が 2 人だったことと比較すると、今回調査の新規回答者に 60 代の方が増加していることから高齢化の傾向がここにも表れている。

【Q4】 あなたの脊損の受傷部位は次のどこですか。

回答	人数	割合
頸髄	45	57.7%
胸髄	17	21.8%
腰髄	6	7.7%
仙髄	1	1.3%
不明	6	7.7%
無回答	3	3.8%
合計	78	100.0%

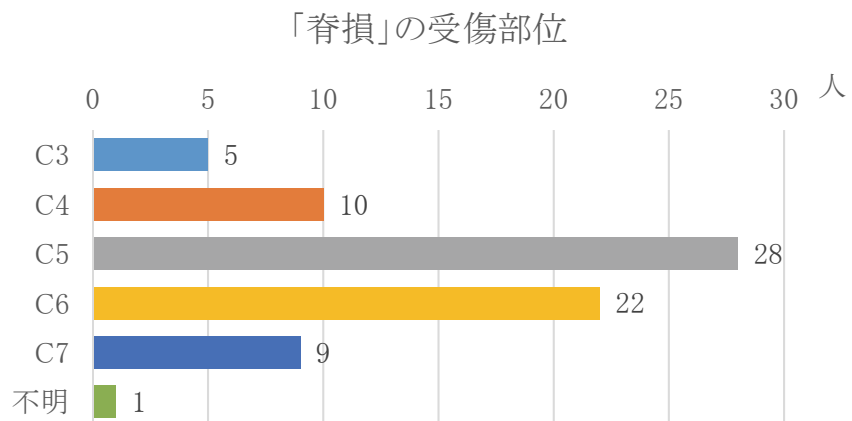


受傷部位については、前回、前前回の調査と同様で、頸髄が最も多く(57.7%)と前回調査から 4 人増えており、頸髄損傷比率が増加傾向にある。次いで、前回同様、胸髄が続いた(21.8%)。腰髄と仙髄を合わせると全体の 9.0%という結果で前回および前々回と変化はなかった。

一方不明者は 6 人で前回とほぼ同数であった。幼少期の事故や疾病の影響があると思われるが、不明のままのようだ。

【Q5】 Q4 で「1.頸髄」と選択した方におたずねします。頸髄の受傷位置は次のどこですか。  
(複数選択)

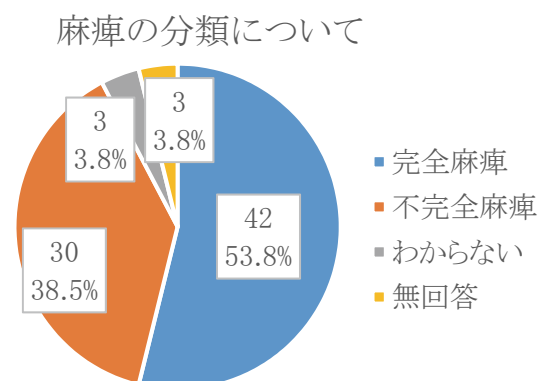
回答	人数
C3	5
C4	10
C5	28
C6	22
C7	9
C8	0
不明	1



新規の質問です。C5 が最も多く 28 人で、自力行動が難しく介助等サポートを日常的に必要となる頸髄損傷の増加傾向があることと、C3 が 5 人と呼吸障害、C4 が 10 人と首下麻痺者の比率が高いことが把握できた。24 時間常時介護体制の充実化が必要と考える。

【Q6】 麻痺の分類について、次のどこですか。

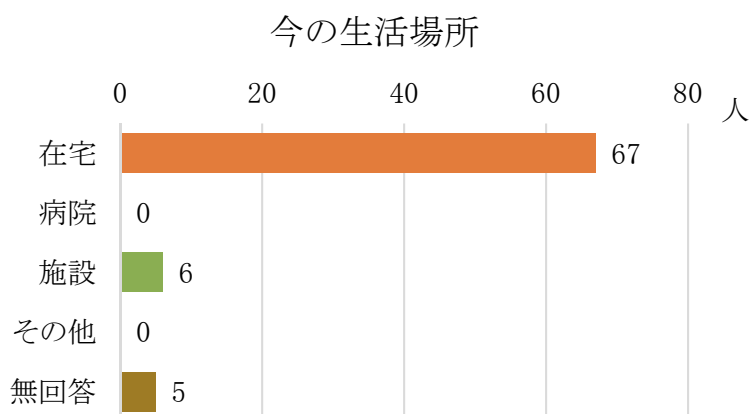
回答	人数	割合
完全麻痺	42	53.8%
不完全麻痺	30	38.5%
わからない	3	3.8%
無回答	3	3.8%
合計	78	100.0%



新規の質問です。高齢者増加傾向の中で受傷原因として「転倒」「脊柱管狭窄症」が多く、その場合は不完全麻痺になる傾向が高く、杖歩行等の立位が可能なケースがあり、その傾向が見て取れた。今後は、ロボットを用いた歩行リハビリ等の充実を求めていく必要性を感じた。

【Q7】 あなたの今の生活場所は次のどれですか。

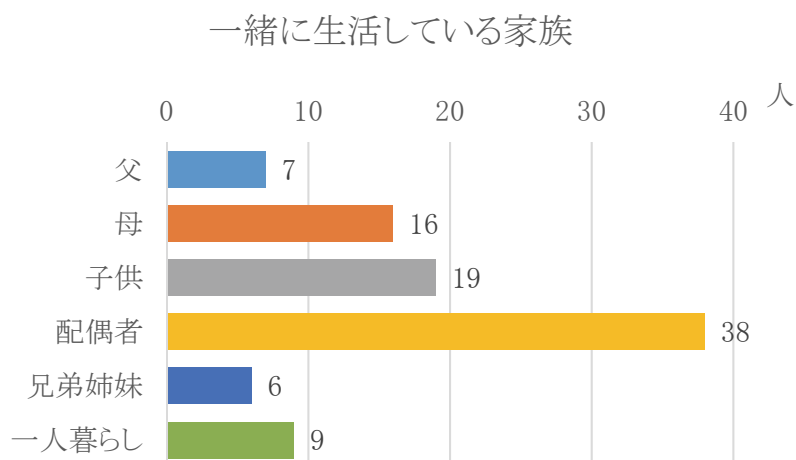
回答	人数	割合
在宅	67	85.9%
病院	0	0.0%
施設	6	7.7%
その他	0	0.0%
無回答	5	6.4%
合計	78	100.0%



回答者の 88.5%が在宅生活をしていた。施設の入所者 6 人は常時介護が必要な人だった。病院の 2 人は受傷 1 年未満の方で、今後は県外のリハビリテーション施設希望が 1 人で、もう一人は胸髄損傷の方で退院後は在宅を予定しているとのことだった。在宅生活と要介護状況は深く影響しあっていることが見えてきた。

【Q8】 Q7で「在宅」と答えた方にお聞きします。あなたと一緒に生活している家族は次のどなたですか。(複数回答可)

回答	人数
父	7
母	16
子供	19
配偶者	38
兄弟姉妹	6
祖父母	0
親類	0
一人暮らし	9
その他	0



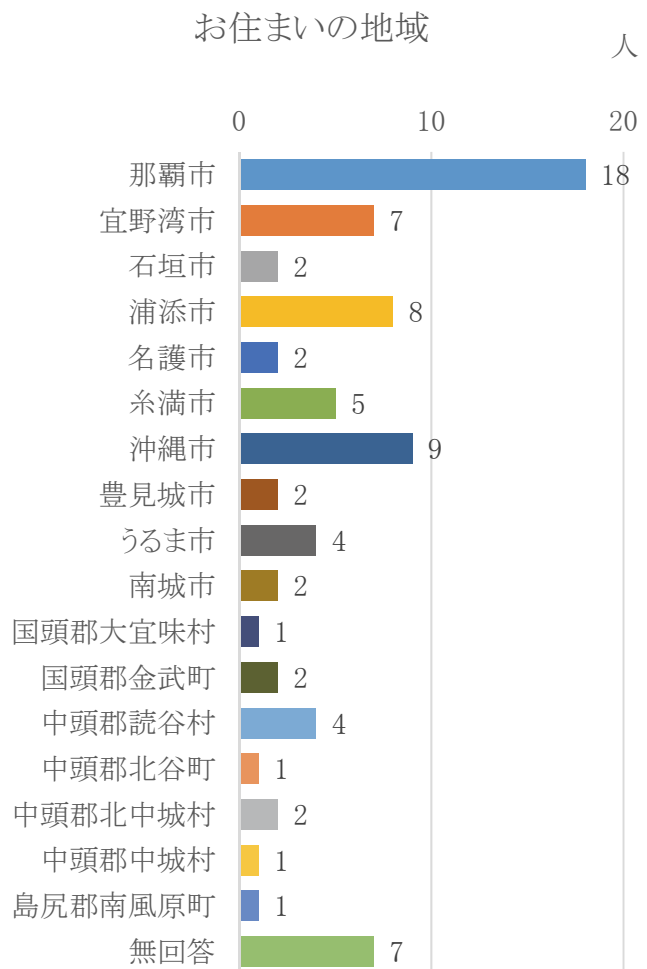
同居者については配偶者が最も多く38人、次いで多かった回答は子どもで19人でした。前回調査では母親が24人で次に多く、今回調査では母親は16人となり、高齢化による介護者のシフト化が顕著な状況である。一人暮らしが9人で、9人の内7人が頸髄損傷でC4=1人、C5=4人と最重度の頸損の自立生活移行が増えている。また、前回調査で祖父母、親戚は3人でしたが、今回調査では0人と在宅福祉サービスの充実化に伴い自身のライフスタイルを確立している方が増えていることが推測される。

【Q9】

あなたのお住まいの地域

を市町村までお書きください。

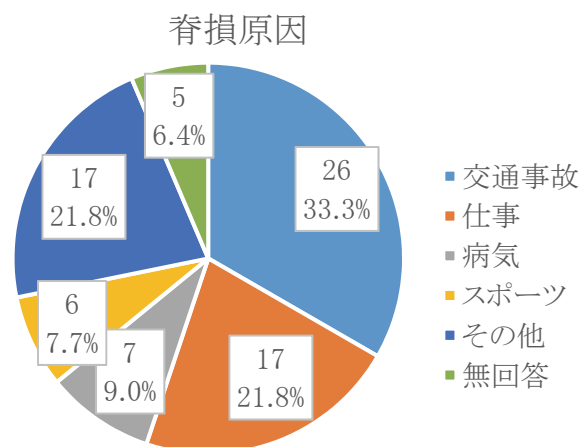
回答	人数	割合
那覇市	18	23.1%
宜野湾市	7	9.0%
石垣市	2	2.6%
浦添市	8	10.3%
名護市	2	2.6%
糸満市	5	6.4%
沖縄市	9	11.5%
豊見城市	2	2.6%
うるま市	4	5.1%
宮古島市	0	0.0%
南城市	2	2.6%
国頭郡国頭村	0	0.0%
国頭郡大宜味村	1	1.3%
国頭郡東村	0	0.0%
国頭郡今帰仁村	0	0.0%
国頭郡本部町	0	0.0%
国頭郡恩納村	0	0.0%
国頭郡宜野座村	0	0.0%
国頭郡金武町	2	2.6%
国頭郡伊江村	0	0.0%
中頭郡読谷村	4	5.1%
中頭郡嘉手納町	0	0.0%
中頭郡北谷町	1	1.3%
中頭郡北中城村	2	2.6%
中頭郡中城村	1	1.3%
中頭郡西原町	0	0.0%
島尻郡与那原町	0	0.0%
島尻郡南風原町	1	1.3%
島尻郡渡嘉敷村	0	0.0%
島尻郡座間味村	0	0.0%
島尻郡粟国村	0	0.0%
島尻郡渡名喜村	0	0.0%
島尻郡南大東村	0	0.0%
島尻郡北大東村	0	0.0%
島尻郡伊平屋村	0	0.0%
島尻郡伊是名村	0	0.0%
島尻郡久米島町	0	0.0%
島尻郡八重瀬町	0	0.0%
宮古郡多良間村	0	0.0%
八重山郡竹富町	0	0.0%
八重山郡与那国町	0	0.0%
無回答	7	9.0%
合計	78	100.0%



## II. 脊髄受傷時の状況

【Q10】 あなたの脊損の原因は次のどれですか。

回答	人数	割合
交通事故	26	33.3%
仕事	17	21.8%
病気	7	9.0%
スポーツ	6	7.7%
その他	17	21.8%
無回答	5	6.4%
合計	78	100.0%

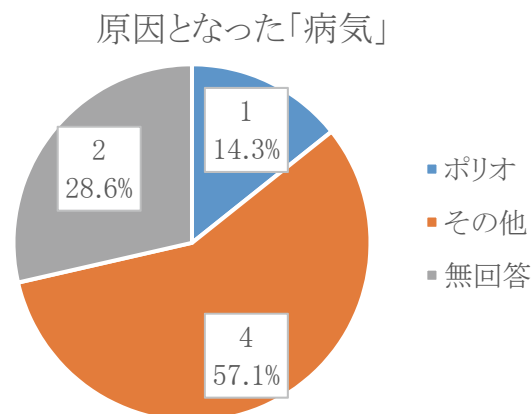


交通事故が最も多く(26人 33.3%)、次に仕事が続いた(17人 21.8%)。前回調査と全体的な変化は見られなかった。

以下の脊損原因の関連設問は今回調査で新規で分析した。

【Q11】 Q10で「1.病気」と選択した方におたずねします。原因は次のどれですか。

回答	人数	割合
ポリオ	1	14.3%
カリエス	0	0.0%
腫瘍	0	0.0%
その他	4	57.1%
無回答	2	28.6%
合計	7	100.0%



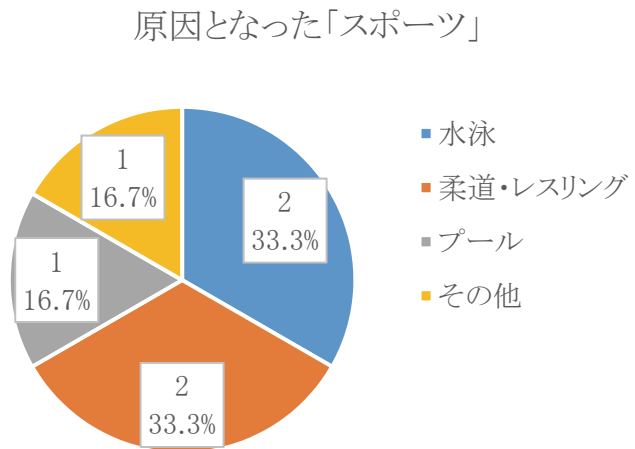
人数 その他の内容

- 1 脊髄硬膜内血管奇形
- 1 脊髄内出血
- 1 後縦靭帯骨化症
- 1 ヘルニア

前回調査では「その他」が16人と多数でしたが、今回調査では8人と減少した。原因疾病の内容は、脊損疾患で見られる一般的な疾病種類であった。

【Q12】 Q10で「2.スポーツ」と選択した方におたずねします。原因は次のどれですか。

回答	人数	割合
水泳	2	33.3%
体操	0	0.0%
柔道・レスリング	2	33.3%
ラグビー	0	0.0%
プール	1	16.7%
その他	1	16.7%
無回答	0	0.0%
合計	6	100.0%



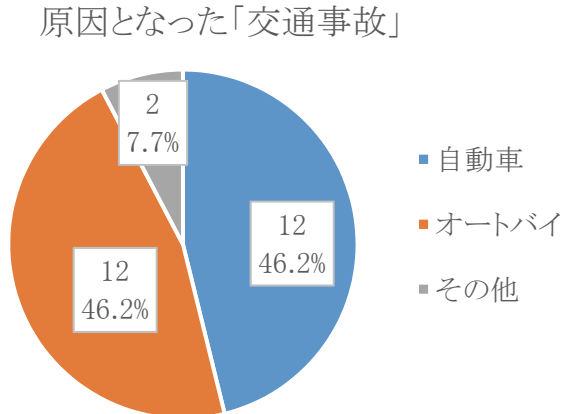
人数 その他の内容

1 ウィンタースポーツ

水泳とプールで3人、柔道レスリング 2 人と一般的なスポーツ原因であった。

【Q13】 Q10で「3.交通事故」と選択した方におたずねします。原因は次のどれですか。

回答	人数	割合
自動車	12	46.2%
トラック	0	0.0%
オートバイ	12	46.2%
自転車	0	0.0%
その他	2	7.7%
無回答	0	0.0%
合計	26	100.0%

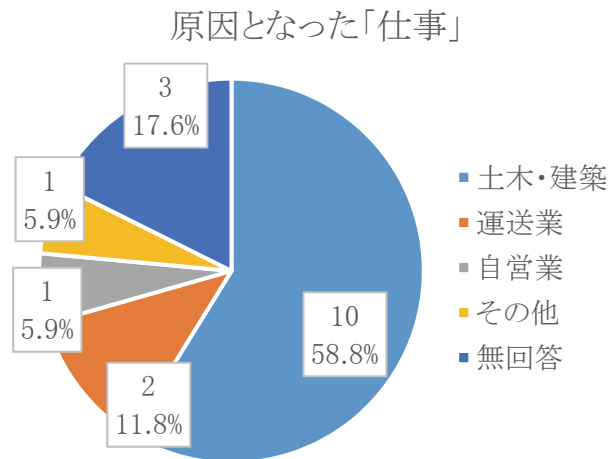


自動車 12 人、オートバイ 12 人と同数でそれ以外の回答はなかった。オートバイ、自動車で障がい部位は両方ともに 8 人が頸髄損傷で交通事故の重度化の傾向があった。交通事故 24 人のうち自動車事故補償制度となる「NASVA 介護料」の受給者は 8 人だった。



【Q14】 Q10で「4.仕事」と選択した方におたずねします。原因は次のどれですか。

回答	人数	割合
土木・建築	10	58.8%
運送業	2	11.8%
農業	0	0.0%
漁業・海運業	0	0.0%
自営業	1	5.9%
会社員	0	0.0%
公務員	0	0.0%
その他	1	5.9%
無回答	3	17.6%
合計	17	100.0%



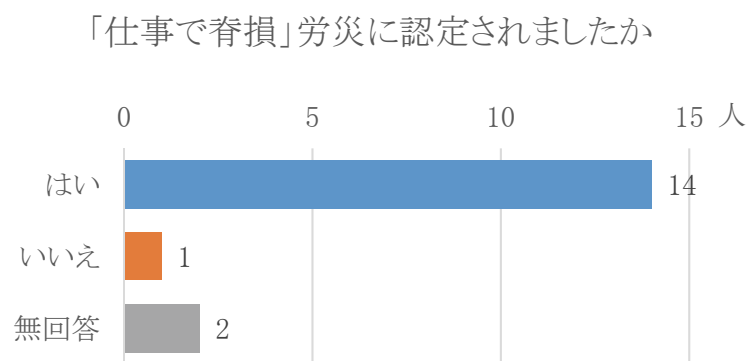
人数 その他の内容

1 看護師

原因で最も多い交通事故の内容では、土木・建築が 10 人と(58.8%)と最も多い。現場作業による転落・転倒のリスクが高いことが推測される。

【Q15】 Q10で「5.その他」と選択した方におたずねします。労災に認定されましたか。

回答	人数	割合
はい	14	82.4%
いいえ	1	5.9%
無回答	2	11.8%
合計	17	100.0%

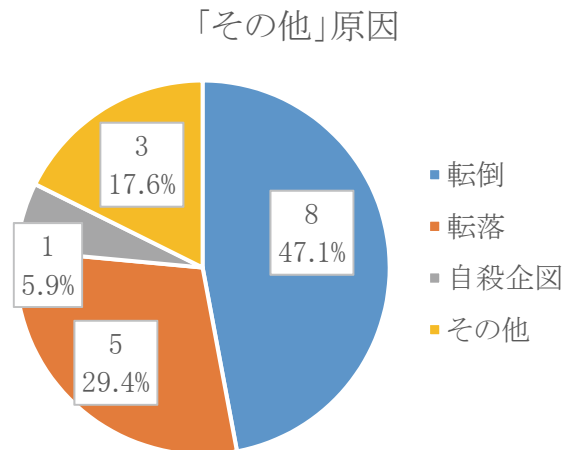


「いいえ」1 名について  
申請したが却下され、損害賠償  
も拒否されたとのこと

労災認定 14 人(82.4%)は保障適用としては良かった。労災認定の申請をしたがされなかった脊損者に対して沖脊協としてバックアップできるように心がけたい。回答者 78 人の内、労災認定は 18%であったが、全国的に比較して沖縄県は低い状況にある。

【Q16】 Q10で「5.その他」と選択した方におたずねします。原因は次のどれですか。

回答	人数	割合
転倒	8	47.1%
転落	5	29.4%
自殺企図	1	5.9%
その他	3	17.6%
無回答	0	0.0%
合計	17	100.0%



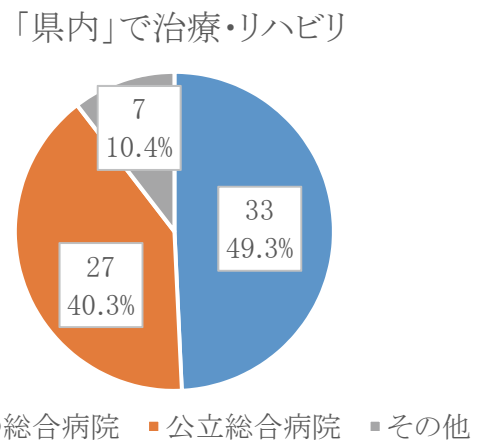
人数	その他の内容
2	遊泳中での飛び込み事故
1	原因不明

その他と回答した者は自宅での転倒・転落が主な原因で、前回調査とはほぼ同じでした。その他の選択者で2人は遊泳中の飛込事故とあったので、選択分類では「スポーツ」とすることが望ましい。

【Q17】 あなたは治療・リハビリをどこで受けられましたか。(複数回答可)

県内

回答	人数	割合
公立総合病院	27	40.3%
民間の総合病院	33	49.3%
その他	7	10.4%
合計	67	100.0%



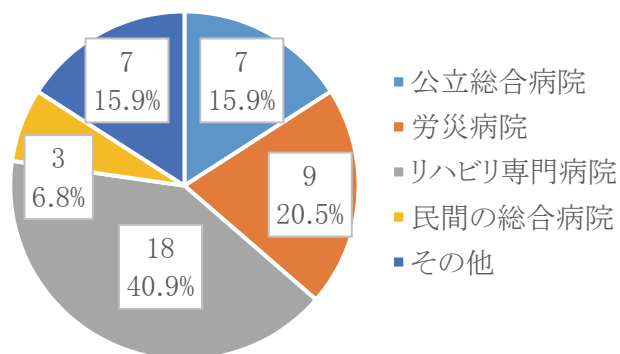
県内のその他内容

- ・県立厚生指導所
- ・リハビリ専門病院
- ・県外在住時に県外で受傷し、県外で治療、リハビリ
- ・自分で
- ・同仁病院（沖縄県浦添市）

## 県外

回答	人数	割合
公立総合病院	7	15.9%
労災病院	9	20.5%
リハビリ専門病院	18	40.9%
民間の総合病院	3	6.8%
その他	7	15.9%
合計	44	100.0%

「県外」で治療・リハビリ



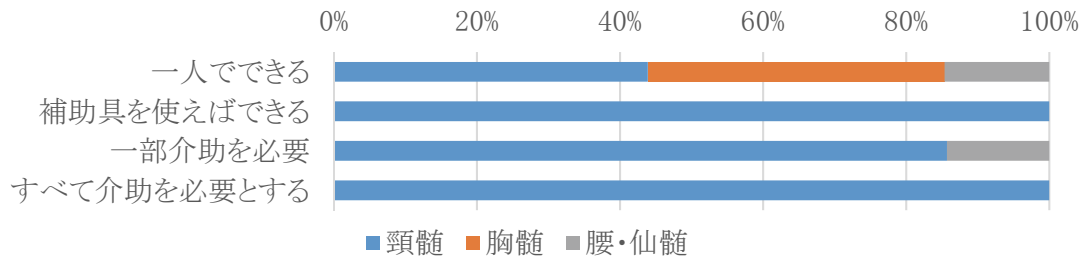
県外の病院やリハビリ施設を利用した人は 78 人中 44 人、県内の病院やリハビリ施設を利用した人は 78 人中 71 人だった。前回とほぼ同様の結果で、県内では民間総合病院を利用するケースが多く、県外ではリハビリ専門病院を利用するケースが多いという結果だった。

### III. 身体状況、健康状況について

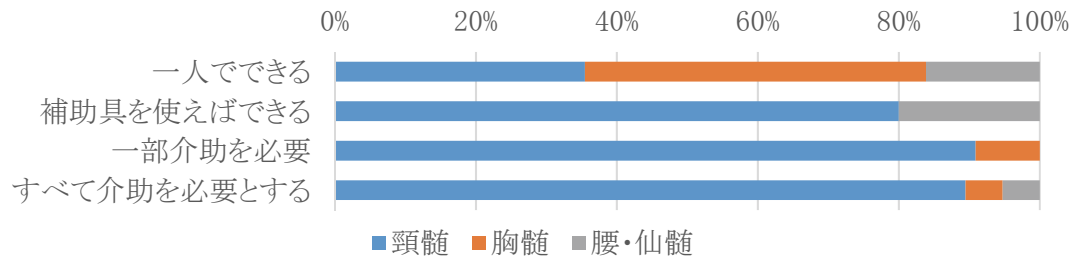
【Q18】今あなたは次の日常動作をどの程度できますか。

損傷部位	人数				割合			
	頸髄	胸髄	腰髄 仙髄	合計	頸髄	胸髄	腰髄 仙髄	合計
<b>①食事</b>								
一人でできる	18	17	6	41	43.9%	41.5%	14.6%	100.0%
補助具を使えばできる	13	0	0	13	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
一部介助を必要	6	0	1	7	85.7%	0.0%	14.3%	100.0%
すべて介助を必要とする	5	0	0	5	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
<b>②服の着替え</b>								
一人でできる	11	15	5	31	35.5%	48.4%	16.1%	100.0%
補助具を使えばできる	4	0	1	5	80.0%	0.0%	20.0%	100.0%
一部介助を必要	10	1	0	11	90.9%	9.1%	0.0%	100.0%
すべて介助を必要とする	17	1	1	19	89.5%	5.3%	5.3%	100.0%
<b>③洗面</b>								
一人でできる	20	13	5	38	52.6%	34.2%	13.2%	100.0%
補助具を使えばできる	5	1	0	6	83.3%	16.7%	0.0%	100.0%
一部介助を必要	9	2	1	12	75.0%	16.7%	8.3%	100.0%
すべて介助を必要とする	8	0	1	9	88.9%	0.0%	11.1%	100.0%
<b>④入浴</b>								
一人でできる	13	10	4	27	48.1%	37.0%	14.8%	100.0%
補助具を使えばできる	3	2	2	7	42.9%	28.6%	28.6%	100.0%
一部介助を必要	6	4	0	10	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%
すべて介助を必要とする	20	1	1	22	90.9%	4.5%	4.5%	100.0%
<b>⑤体位交換</b>								
一人でできる	17	15	5	37	45.9%	40.5%	13.5%	100.0%
補助具を使えばできる	2	1	1	4	50.0%	25.0%	25.0%	100.0%
一部介助を必要	4	1	0	5	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%
すべて介助を必要とする	19	0	1	20	95.0%	0.0%	5.0%	100.0%
<b>⑥ベッドや車椅子への移乗</b>								
一人でできる	16	12	5	33	48.5%	36.4%	15.2%	100.0%
補助具を使えばできる	3	2	1	6	50.0%	33.3%	16.7%	100.0%
一部介助を必要	6	2	0	8	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%
すべて介助を必要とする	16	1	1	18	88.9%	5.6%	5.6%	100.0%

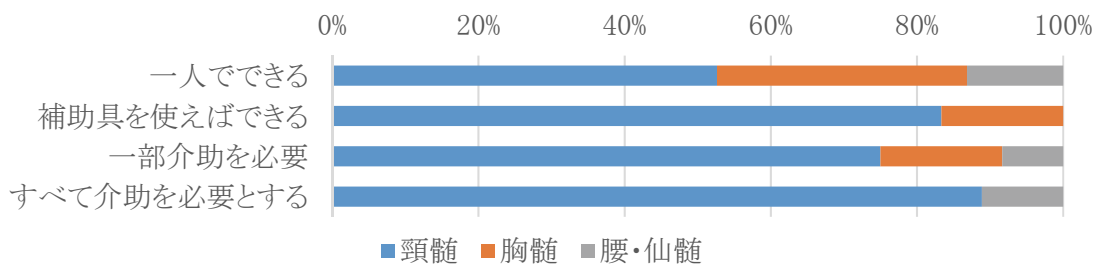
### ①食事



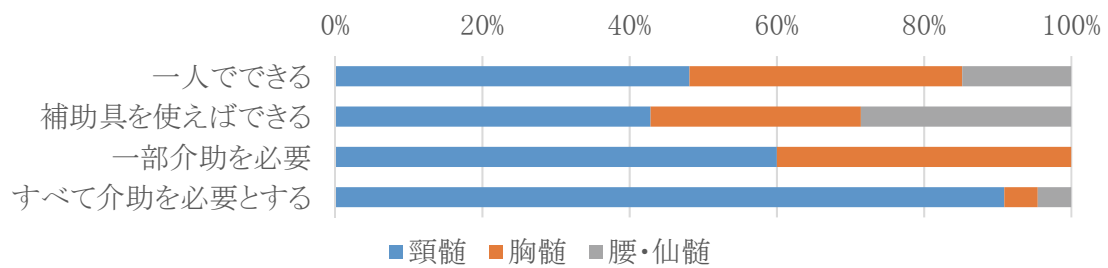
### ②服の着替え



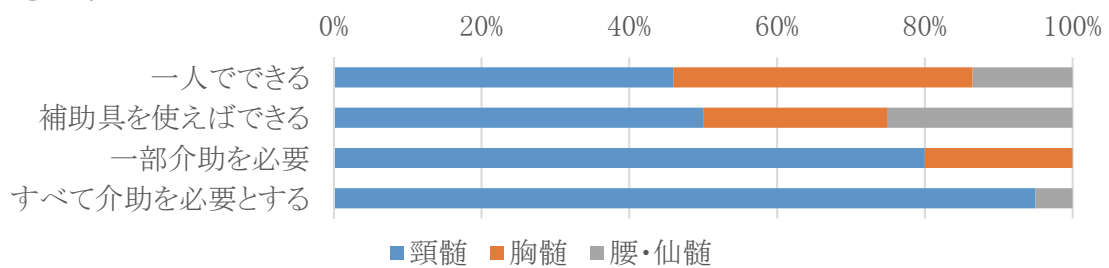
### ③洗面



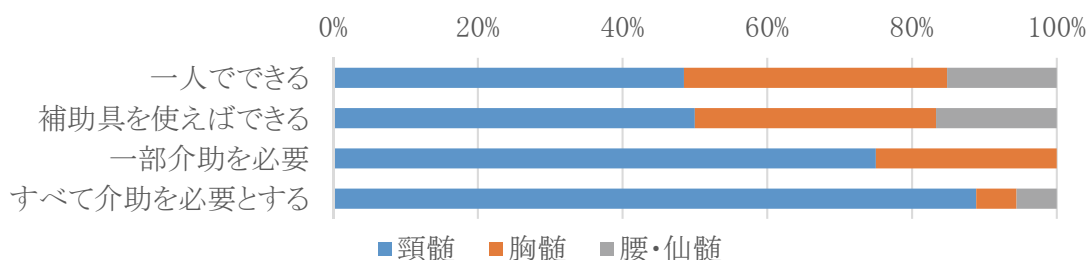
### ④入浴



### ⑤体位交換



## ⑥ベッドや車椅子への移乗



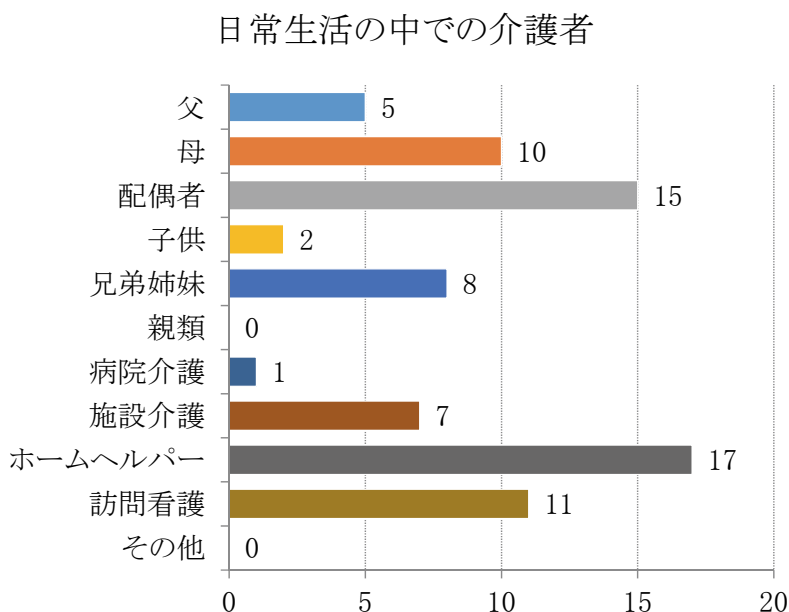
日常生活動作(ADL)の実態について、①食事、②服の着替え、③洗面、④排尿、⑤排便、⑥入浴、⑦体位交換、⑧ベッドや車椅子への移動に分けて質問した。

その結果、一人でできる、もしくは補助具を使えば(一人で)できるが最も多かった項目は「食事」であり、この結果は前回調査と同じだった。一方、最も介助を必要としていた項目は「入浴」、次いで「排便」であり、この結果も前回調査と同じだった。

一部もしくはすべて介助が必要と回答した人を損傷部位別に見ると、頸髄損傷者が最も介助を必要としていた。この結果も前回調査と同じだった。

【Q19】「一部介助」「すべての介助」と選択した方におたずねします。日常生活の中で介護者はどなたですか。(複数選択)

回答	人数	割合
父	5	6.6%
母	10	13.2%
配偶者	15	19.7%
子供	2	2.6%
兄弟姉妹	8	10.5%
親類	0	0.0%
病院介護	1	1.3%
施設介護	7	9.2%
ホームヘルパー	17	22.4%
訪問看護	11	14.5%
その他	0	0.0%

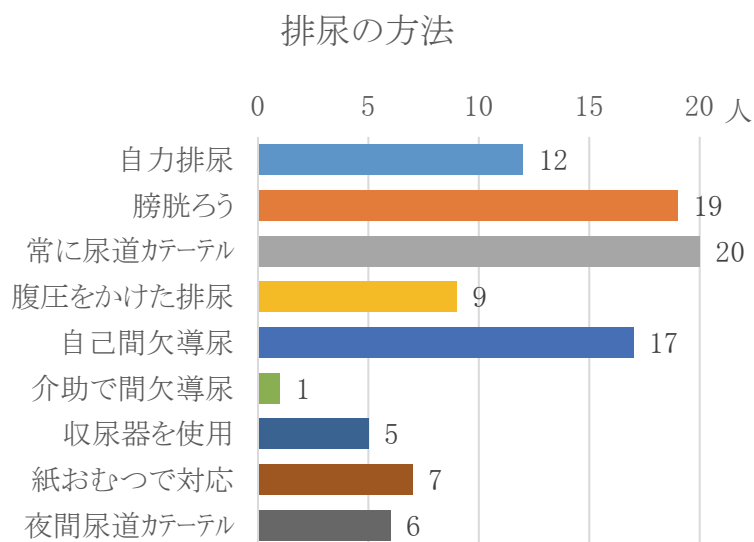


ホームヘルパーが17人で最も多く、前回調査の10人と倍増に近い。次に配偶者が15人と前回調査10人から増えた。一方、施設介護は7人で前回調査では11人と最も多かったが減少した。また今回調査項目で新規だった訪問看護も11人と多く、在宅サービス利用の傾向が顕著だった。

母10人、父5人と親が15人となっていて、回答者の平均年齢41.9歳を考えると高齢の老介護の実態があり、将来の介護を不安に思う人がいることが推測される。配偶者であっても今後の介護体制が安泰とは言い切れないことを考えるとホームヘルパー等の在宅サービスの利用が今後益々増えることが推測できる。

【Q20】 排尿について、おたずねします。排尿はどのような方法でしていますか。該当する箇所すべてに○をつけてください。(複数選択)

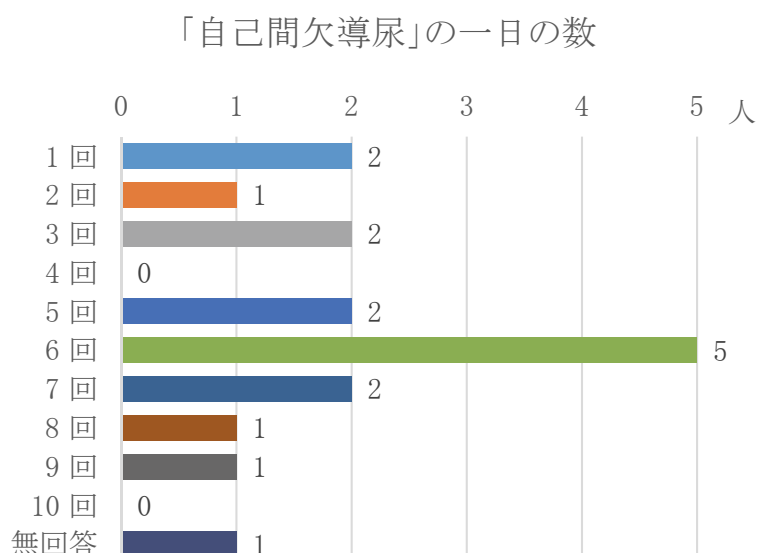
回答	人数
自力排尿	12
膀胱ろう	19
常に尿道カテーテル	20
腹圧をかけた排尿	9
自己間欠導尿	17
介助で間欠導尿	1
収尿器を使用	5
紙おむつで対応	7
夜間尿道カテーテル	6



排泄方法について新規設問です。「常に尿道カテーテル」が 20 人でもっと多く、次に「膀胱ろう」が 19 人。他は「自己間欠導尿」が 17 人、「夜間尿道カテーテル」の 6 人含めると排泄方法の多様性がある。頸髄損傷の多くが「膀胱ろう」、「尿道カテーテル」、「夜間尿道カテーテル」、「紙おむつ」の利用で常に尿管理をする生活をしていることが推測される。

【Q21】 「5.自己間欠導尿」と選択した方におたずねします。「自己間欠導尿」の一日のおよその数は何回ですか？

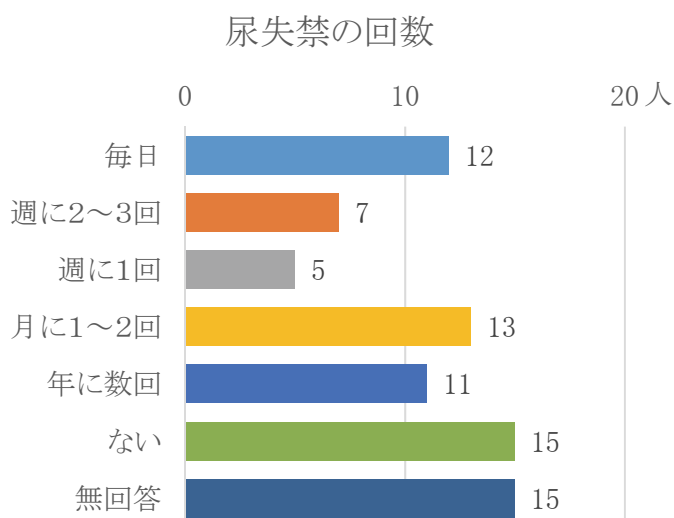
回答	人数	割合
1 回	2	11.8%
2 回	1	5.9%
3 回	2	11.8%
4 回	0	0.0%
5 回	2	11.8%
6 回	5	29.4%
7 回	2	11.8%
8 回	1	5.9%
9 回	1	5.9%
10 回	0	0.0%
無回答	1	5.9%
合計	17	100.0%



全数 17 人の内 5 回以上が 12 人と多く、1 日の中で定期的な自己間欠導尿することは導尿実施場所といった環境確保が必要となり、外出時や仕事では制限がでていることが推測される。

【Q22】尿失禁はどのぐらいありますか。該当する箇所を選択してください。

回答	人数	割合
毎日	12	15.4%
週に2～3回	7	9.0%
週に1回	5	6.4%
月に1～2回	13	16.7%
年に数回	11	14.1%
ない	15	19.2%
無回答	15	19.2%
合計	78	100.0%



脊損者で最も悩ましいのは排泄失禁である。「毎日」～「月に1～2回」を合わせると37人で約半数が日常的に不安を抱えていることが推測でき、頸髄だからという事ではなく、胸髄、腰髄含めて全体的な悩みとなっている。特に毎日が12人もいることは排泄方法の情報提供の必要性を強く感じる。

【Q23】「6.ない」以外を選択した方におたずねします。その対処方法を教えてください。

人数	対処方法
3	紙オムツで対処
7	尿パット使用
1	紙おむつや尿とりパッド
1	板をひく
2	衣服を着替える
1	日中は収尿器装着の為、収尿器の不具合で漏れる場合は交換。夜間は尿瓶を当てたまま寝るので、たまに外れや溢れがあり、尿瓶の交換や敷いている防水シートや紙オムツの交換。
1	尿もれ程度がほとんどなので、基本的には女性用ナプキンを使用し、量が多いときは尿取りパットを併用。
2	特になし

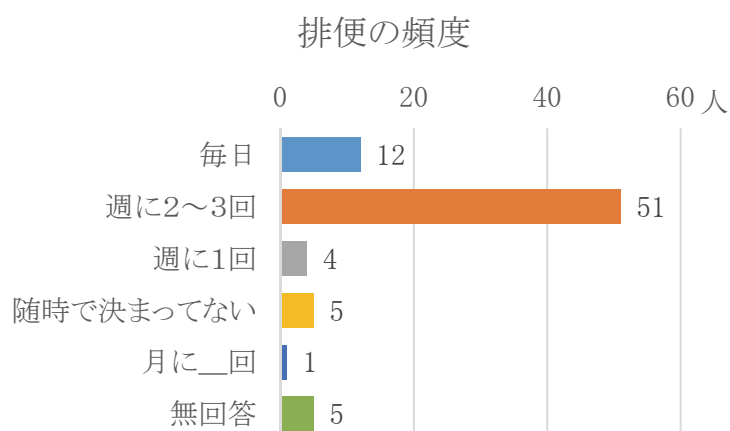
紙おむつ、尿パットを活用している方が多い。



【Q24】 排便について、おたずねします。排便の頻度はどのぐらいですか。

該当する箇所1つに○をつけてください。

回答	人数	割合
毎日	12	15.4%
週に2～3回	51	65.4%
週に1回	4	5.1%
随時で決ま らない	5	6.4%
月に__回	1	1.3%
無回答	5	6.4%
合計	78	100.0%



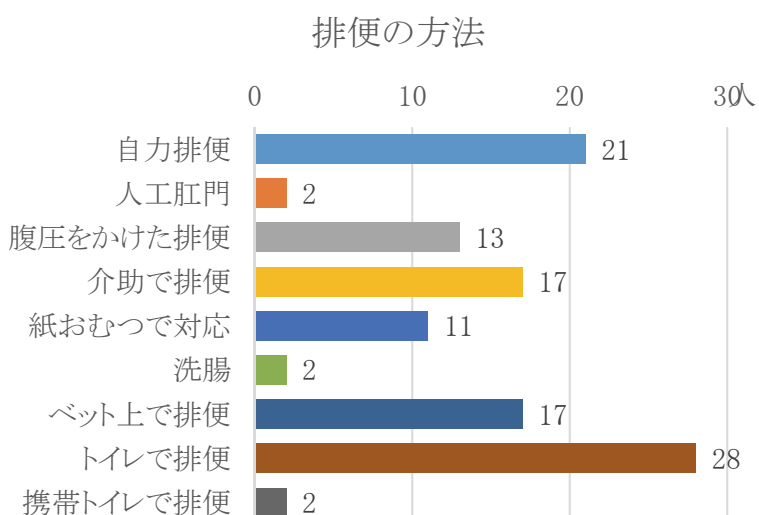
人数	月に__回
1	4 回

「毎日」が12人、「週2～3回」が51人と多く80.8%となっているが、「週に1回」、「随時で決ま  
らない」併せて10人と困っている人もいることから、ここでも排泄方法の情報提供の必要性を感じる。

【Q25】 排便はどのような方法でしていますか。

該当する箇所すべてに○をつけてください。(複数回答)

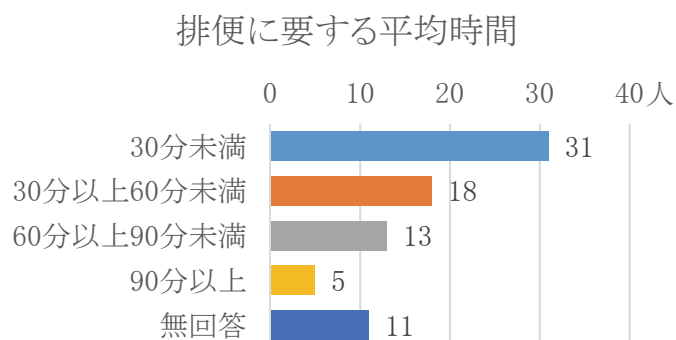
回答	人数
自力排便	21
人工肛門	2
盲腸ポート	0
腹圧をかけた排便	13
介助で排便	17
紙おむつで対応	11
洗腸	2
ベット上で排便	17
トイレで排便	28
携帯トイレで排便	2



排便については、何らかの介助を必要とする、「人工肛門」、「介助で排便」、「紙おむつで対応」、  
「洗腸」、「ベット上で排便」、「携帯トイレ」を併せると53人で53%と半数がなんらかの介助を常時必  
要としていることが推測される。

【Q26】 排便に要する平均時間はどのぐらいですか。

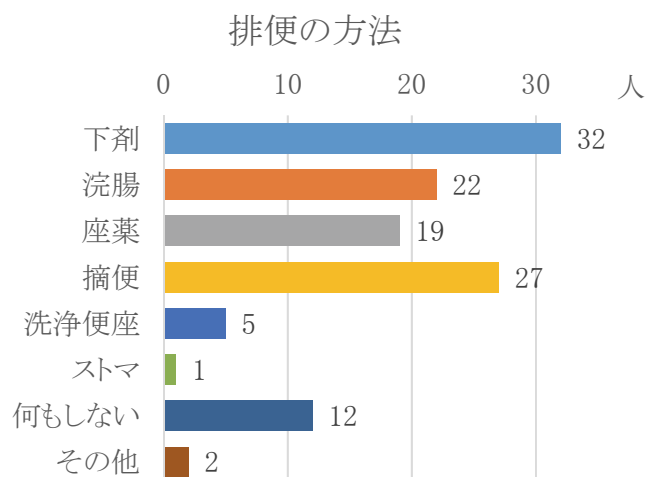
回答	人数
30分未満	31
30分以上 60分未満	18
60分以上 90分未満	13
90分以上	5
無回答	11
合計	78



「60分以上」と「90分以上」併せて 18 人(18.2%)で決して少ない人数ではなく、常に排便時間を確保しなければならない生活に困っていることが推測される。

【Q27】 排便を促す方法について、該当する箇所すべてに○をつけてください。(複数回答)

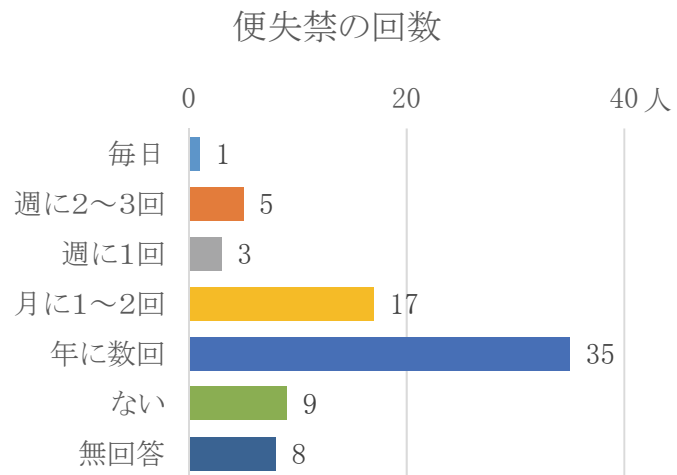
回答	人数
下剤	32
浣腸	22
座薬	19
摘便	27
洗浄便座	5
ストマ	1
何もしない	12
その他	2



排便自立している方も何らかの工夫や方法を用いて排便コントロールしていることが推測され、摘便も 27 人と多く、サポートによる排便が日常的なことが推測される。

【Q28】 便失禁はどのぐらいありますか。該当する番号1つに○をつけてください。

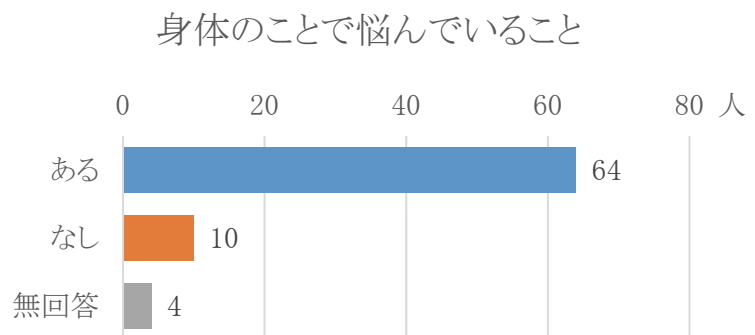
回答	人数
毎日	1
週に2～3回	5
週に1回	3
月に1～2回	17
年に数回	35
ない	9
無回答	8
合計	78



「毎日」～「年に数回」を併せて63人(78.2%)で特に「毎日」～「月に1～2回」併せて26人(33.3%)で、ここでも排泄管理の情報提供の必要性を強く感じる。年に数回 35人併せると63人となり多くが排便失禁に悩んでいることがうかがえる。

【Q29】 あなたは身体のことでは悩んでいることはありますか。

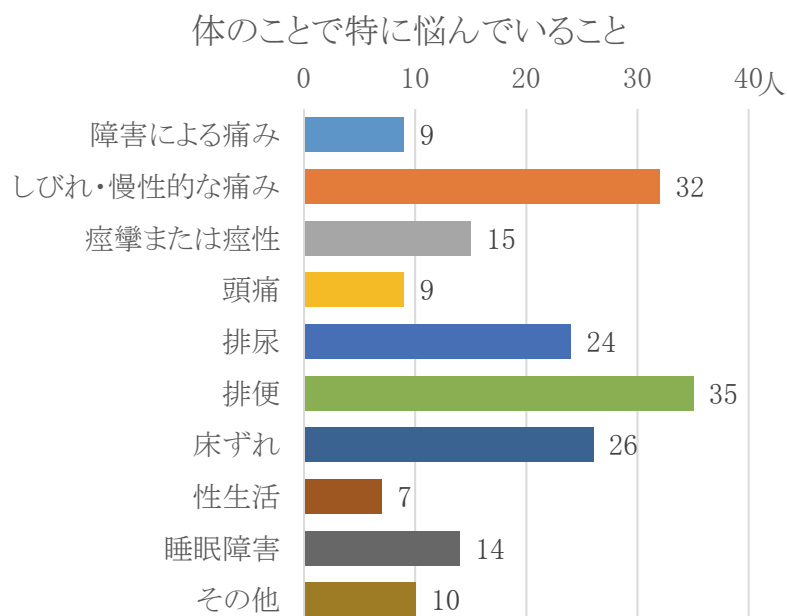
回答	人数	割合
ある	64	82.1%
なし	10	12.8%
無回答	4	5.1%
合計	78	100.0%



「ある」と回答した人は64人(82.1%)、いいえは10人(12.8%)、無回答は4人(5.1%)だった。「いいえ」と回答した10人のうち頸髄損傷8人でしたが、移動が自家用車の方が6人で、経済状況も比較的安定している方々でした。前回調査結果(悩みありが72.8%、悩みなしが25.9%)と比較すると身体の悩みがある人の割合が増えていた。

【Q30】 Q29であると答えた方におたずねします。体のことで特に悩んでいることは次のどれですか。(複数回答)

回答	人数
障害による痛み	9
しびれ・慢性的な痛み	32
痙攣または痙性	15
頭痛	9
排尿	24
排便	35
床ずれ	26
性生活	7
睡眠障害	14
その他	10



人数 その他内容

- |   |   |
|---|---|
| 2 | 痔の出血  |
| 1 | しびれ(冬場)   |
| 1 | 血圧低下  |
| 1 | 腎機能   |
| 1 | 他に病気がある   |
| 1 | 体の関節のかたまり   |
| 1 | 肥満  |
| 1 | 顔、インポ   |
| 1 | 夜間、横向きで寝るが、慣れなどで常に右側を向く為か、身体が歪んできている。若干、車椅子を漕ぎ辛い。 |

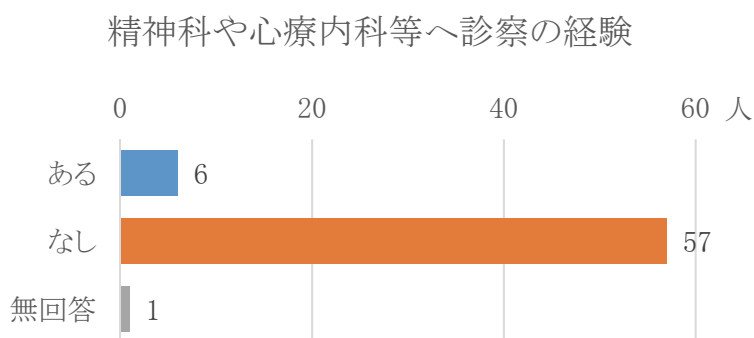
この設問は複数回答であったが、回答がひとつだけという人は 64 人中 14 人だった。複数回答をしている者が多く、2つあると回答した人は 14 人、3つあると回答した人は 11 人、4つは 9 人、5つ以上あると回答した者が 12 人だった。前回調査では5つが 1 人だったことから、痛み、しびれ、排尿、排便、痙攣など、日常的で継続的な悩みを複数抱えている状況は増えてきている。特に排尿・排便が 59 人と多く、前回調査の 45 人から増えている。また、睡眠障害は新設問だったが 14 人と予想以上に多く、精神的負担の影響性なども今後探求する必要があると思われる。

日常生活での悩みが身体の状態が外出や仕事、趣味など社会生活に様々な制限を加えているわけだが、社会福祉サービスが充実すれば解決とはならないところが問題の複雑性を表明している。

【Q31】 Q29で「ある」と答えた方にお聞きします。

悩み事を相談するために、精神科や心療内科等へ診察の経験がありますか。

回答	人数	割合
ある	6	9.4%
なし	57	89.1%
無回答	1	1.6%
合計	64	100.0%



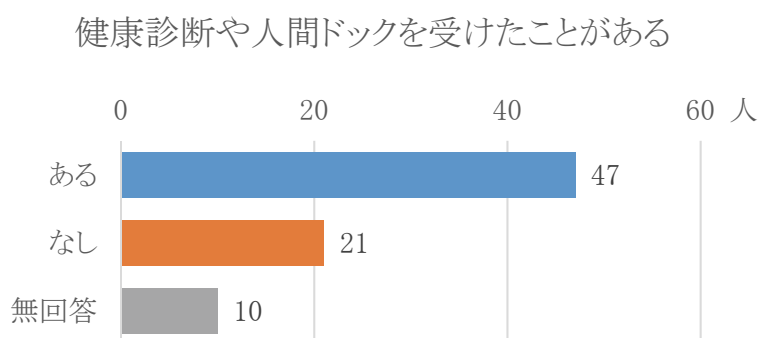
人数 あると答えた方の症状

- 2 うつ病
- 1 自律神経失調症
- 1 不眠
- 1 その他

新設問です。「ある」と回答した6人の方々は、設問19で悩み3つ以上と多く、睡眠障害あるも3人と日常的な生活の悩みが起因となっていることが推測される。

【Q32】 過去1年間で健康診断や人間ドックを受けたことがありますか。

回答	人数	割合
ある	47	60.3%
なし	21	26.9%
無回答	10	12.8%
合計	78	100.0%

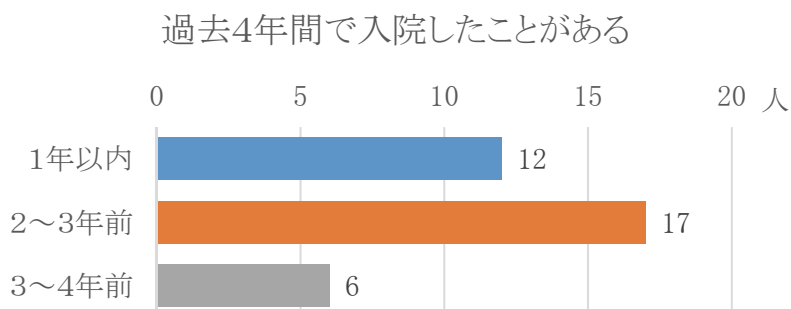


新設問です。「なし」が21人(26.9%)で内14人が移動に悩みがあり、頸髄損傷が12人でした。検診やドックへの移動が困難で、慣れていない場所に行くことに躊躇していることと、健診、ドックの病院が脊損に配慮した対応をいただけるかに不安を抱いていることが推測される。

【Q33】 過去4年間で入院したことがありますか。それはいつ頃ですか。

その入院日数と理由をお答えください。

回答	人数
1年以内	12
2～3年前	17
3～4年前	6



### 1年以内に入院した日数と理由

入院日数	理由
1	大腸ポリープ
3	狭心症
3	結石
3	尿路感染
7	膀胱結石のため
7	尿路感染
10	急性腎炎のため
10	肺炎、尿路感染
28	骨折
-	褥瘡。いまだに入院中
-	褥瘡治療

### 2～3年に入院した日数と理由

入院日数	理由
1	アテロームのため
3	心房細動
5	尿路感染症
7	インフルエンザ
7	肺炎
7	肺炎
10	尿道炎
12	骨折
14	尿路感染
14	県外への帰省などで尿路感染をこじらせて菌血症となった
14	急性虫垂炎
30	肺がん、脳梗塞
30	蜂窩織炎
40	手術
120	左太もも骨折

210 両下肢骨折  
- 肺炎

## 2～3年に入院した日数と理由

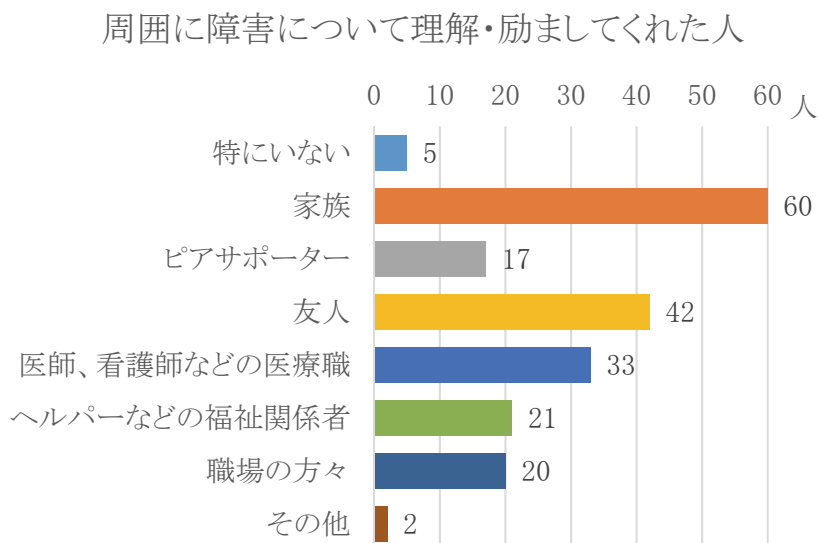
入院日数	理由
4	尿路感染
14	父の入院などでの帰省等で疲れた為か、肺炎。
20	尿路感染
30	膀胱結石からの腎盂腎炎から敗血症
240	骨折→手術→回復期リハ

新設問です。「4年以内にある」と回答したのは35人(44.9%)で、【22】の設問含めて日常的に医療との関わりが多く、体調や健康管理の必要性が顕著にみられた。入院理由はやはり尿路感染、尿道炎、腎炎、結石といった排泄に関連した病状が多くみられた。入院日数では骨折や褥瘡が長期になっている傾向がみられた。

【Q34】受傷後から現在まで、あなたの周囲に障害についてあなたの気持ちを理解し、あなたを励ましてくれた人はいましたか。

最も該当する箇所すべてを選択してください。(複数回答)

回答	人数
特にいない	5
家族	60
ピアサポーター	17
友人	42
医師、看護師などの医療職	33
ヘルパー等の福祉関係者	21
職場の方々	20
その他	2



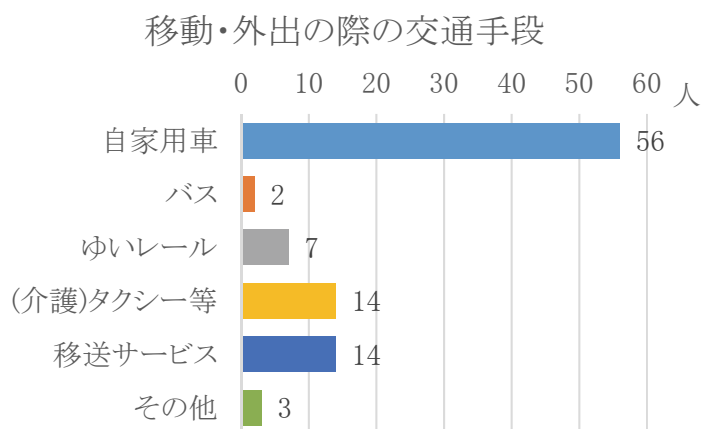
人数	その他内容
1	デイサービスの管理職
1	行きつけのお店の人。

新設問です。「家族」60人、「友人」42人で身近な方に励まされている傾向がある。「医師・看護師の医療職」、「ヘルパー等の福祉関係者」と支援者が続いた。沖脊協で取り組んでいる「ピアサポーター」が17人と一定の励まし役を担っているのは良かった。

## IV. 移動と外出についてお聞きします

【Q35】 あなたの移動・外出の際の交通手段は何ですか(複数回答)。

回答	人数
自家用車	56
バス	2
ゆいレール	7
介護タクシー等	14
移送サービス	14
その他	3

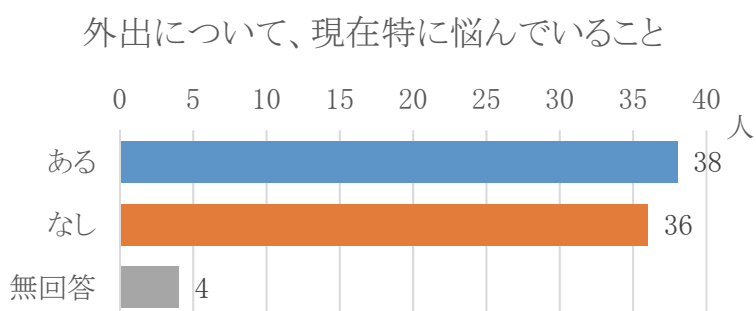


人数	その他内容
1	自走(車椅子)
1	たまに普通のタクシー
1	飛行機、船。

自家用車の利用が 56 人(68.3%)で前回調査 59 人(72.8%)と同様に圧倒的に多かった。公共交通の「バス」2 人、「ゆいレール」7 人は少数ではあるが、前回調査が「バス」、「ゆいレール」併せて 2 人だったことから考えると、ゆいレールのバリアフリーによる利活用が図られていて良かった。「介護タクシー」14 人、「移送サービス」14 人は前回調査と変わらなかったが、利用している方々は C4、C5 の高位額損がほとんどで、移動手段が限られていることが推測できる。

【Q36】 あなたは外出について、現在特に悩んでいることはありますか。

回答	人数	割合
ある	38	48.7%
なし	36	46.2%
無回答	4	5.1%
合計	78	100.0%



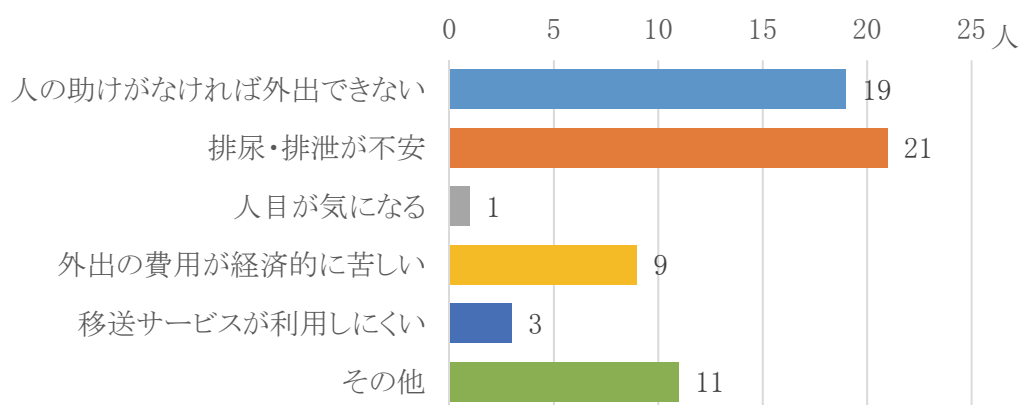
悩みが「ある」がやや多い結果となった。前回調査では「なし」が 55.6%だったことから、公共交通利用や移送サービスの充実が影響したと推測される。



【Q37】 Q36で「ある」と答えた方にお聞きします。外出について悩んでいたり、不安なことは次のどれですか。(複数回答)

回答	人数
人の助けがなければ外出できない	19
排尿・排泄が不安	21
人目が気になる	1
外出の費用が経済的に苦しい	9
移送サービスが利用しにくい	3
その他	11

### 移動・外出の際の交通手段



人数	その他内容
3	体調が悪かったり、急な体調変化に用意ができない
2	車椅子用の駐車スペースがあるか不安
1	しびれが強いので、長時間の外出が困難
1	雨天時の外出
1	運転に不安がある。
1	車の乗り降り全面介助です。69歳という高齢ドライバー？不安有り
1	車へのトランスファーが難しくなってきた
1	褥瘡

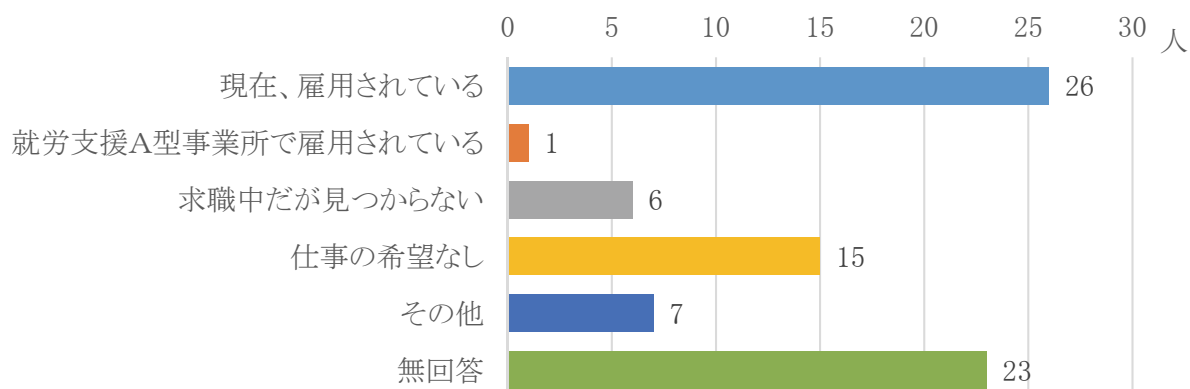
複数回答の結果、外出に悩みありと回答した 38 人中 21 人が外出時の排せつに悩みを抱えていた。次いで、19 人が「介助がないと外出できない」と回答した。この 2 つの理由が圧倒的に多く、3 番目以降と大きく差が出ていて、前回調査でも同様であった。その他意見で、「体調の不安」3 人、「駐車場があるか不安」2 人等は、不適正駐車問題に困っている声で潜在的には多い意見と思われる。

## V. 就労状況について

【Q38】 あなたは脊損になってから仕事をしたことはありますか。

回答	人数	割合
現在、雇用されている	26	33.3%
就労支援A型事業所で雇用されている	1	1.3%
自営業している	0	0.0%
求職中だが見つからない	6	7.7%
仕事の希望なし	15	19.2%
その他	7	9.0%
無回答	23	29.5%
合計	78	100.0%

脊損になってから仕事をしたことがありますか



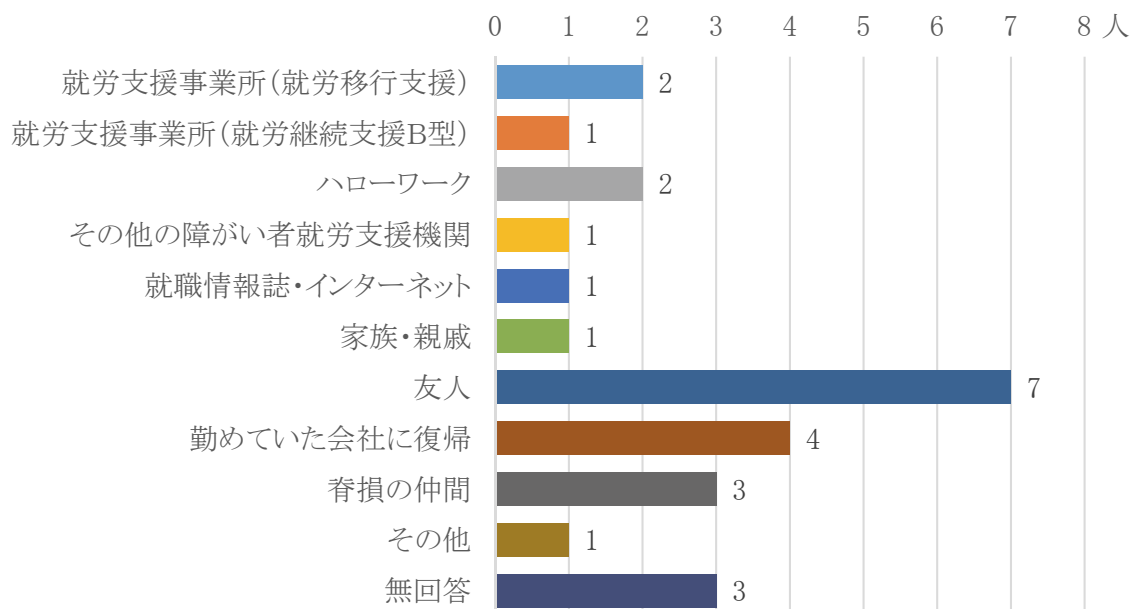
人数	その他内容
1	身体的に厳しい
1	障害年金生活
2	以前はしていたが今はしていない
3	昨年まではあります。

「現在、雇用されている」方 26 人 (33.3%) と最も多く、前回調査の 20 人 (24.7%) から増えている。雇用されている回答者の多くが 30 代～50 代 (23 人) で、20 代 1 人、60 代 2 人だった。仕事の希望なしが 15 人 (19.2%) で、前回調査では 30 人 (37.0%) と比較して働くことの可能性が広がってきていることが推測できる。無回答が 23 人と多く、50 代 4 人、年齢 60 代以降が 5 人だった。また、「外出での介助に悩みがある」と答えた方が 11 人と多く、回答に悩んだことが推測される。

【Q39】今の仕事を見つけたきっかけは次のどれですか。

回答	人数	割合
就労支援事業所(就労移行支援)	2	7.7%
就労支援事業所(就労継続支援A型)	0	0.0%
就労支援事業所(就労継続支援B型)	1	3.8%
ハローワーク	2	7.7%
その他の障がい者就労支援機関	1	3.8%
就職情報誌・インターネット	1	3.8%
職業訓練校	0	0.0%
高校や大学	0	0.0%
家族・親戚	1	3.8%
友人	7	26.9%
勤めていた会社に復帰	4	15.4%
医療機関	0	0.0%
脊損の仲間	3	11.5%
その他	1	3.8%
無回答	3	11.5%
合計	26	100.0%

今の仕事を見つけたきっかけ



きっかけに関して抜きこんでいる社会資源はなかったが、仲間や友人からの情報を得る傾向はみられた。新規設問に福祉サービスの3つの就労支援事業を加えたが、3人に留まっている。「職業訓練校」や「学校」選択肢に入れたが、利用した者はいなかった。

【Q40】 Q38で「現在、雇用されている」と答えた方にお聞きします。現在の勤務日数と時間はどのくらいですか。

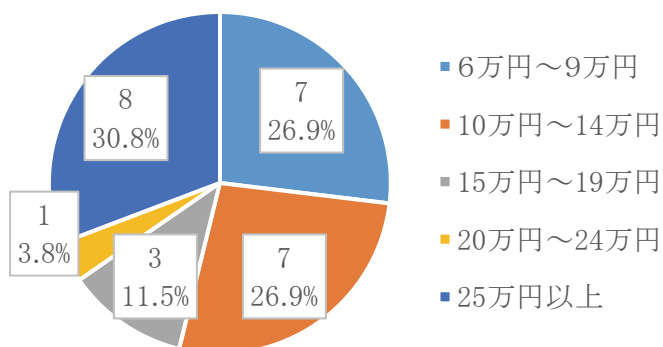
回答	週に__日	1日__時間	人数	割合
週 3日 1日 6時間	3	6	1	3.8%
週 3日 1日 7時間	3	7	1	3.8%
週 3日 1日 8時間	3	8	1	3.8%
週 4日 1日 8時間	4	8	1	3.8%
週 5日 1日 4時間	5	4	1	3.8%
週 5日 1日 6時間	5	6	4	15.4%
週 5日 1日 7時間	5	7	1	3.8%
週 5日 1日 7.5時間	5	7.5	1	3.8%
週 5日 1日 8時間	5	8	11	38.5%
週 5日 1日 9時間	5	9	1	3.8%
週 5日 1日 10時間	5	10	1	3.8%
週 5日 1日 11時間	5	11	1	3.8%
週 6日 1日 8時間	6	8	1	3.8%
無回答	0	0	0	0.0%
合計	64	139.5	26	100.0%

前回調査では雇用されている人は20人で、今回は26人で増加となった。現在仕事をしている人は週5日働いている者が84.6%と前回調査に引き続き圧倒的に多かった。週5日の1日8時間が11人で最も多く、週40時間以上も5人いた。

【Q41】 Q38で「現在、雇用されている」と答えた方にお聞きします。現在の仕事の1ヵ月の収入は次のどれですか。

回答	人数	割合
5万円以下	0	0.0%
6万円～9万円	7	26.9%
10万円～14万円	7	26.9%
15万円～19万円	3	11.5%
20万円～24万円	1	3.8%
25万円以上	8	30.8%
無回答	0	0.0%
合計	26	100.0%

現在の仕事の1ヵ月の収入



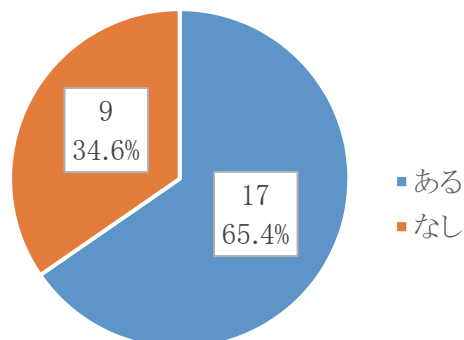
1か月の収入に関しては、26人のうち半数の14人が6万円代～14万円代で前回調査と差はなかった。前回調査では20万円以上を上限として4人となっていたが、今回調査で25万円以上を新たに項目を入れたところ8人と回答があった。給与水準が高くなったことが推測されたが、平均で見ると一般的な経済水準と比較してはかなり厳しい状況にある。

【Q42】 Q38で「雇用されている」と答えた方にお聞きします。

あなたは仕事について悩んでいることはありますか。

回答	人数	割合
ある	17	65.4%
なし	9	34.6%
無回答	0	0.0%
合計	26	100.0%

仕事についての悩み



回答	人数
希望する職種が見つからない	0
賃金が低い	4
労働時間が長い	2
通勤が困難	0
仕事がきつい	1
仕事内容がつまらない	0
職場での人間関係	2
トイレやスロープ等の職場環境が不十分	3
障がい理解の不足	3
仕事の能力が劣る	2
排尿・排便がうまくコントロールできない	6
床ずれがある	2
その他	3

仕事で悩みありと回答した17人(65%)で、前回調査9人からは増えた。抱える悩みを複数回答で求めたところ、ばらつきが見られ、何らかの傾向を見出すことは難しい結果だったが、その中であって「賃金が低い」が4人。「トイレやスロープ等のバリアフリー環境の不備」3人、「障がい理解の不足」3人は車いすの障がい者雇用で多くある問題といえる。「排尿・排便コントロールの不安」が6人と脊損特有の問題で悩みが深い。

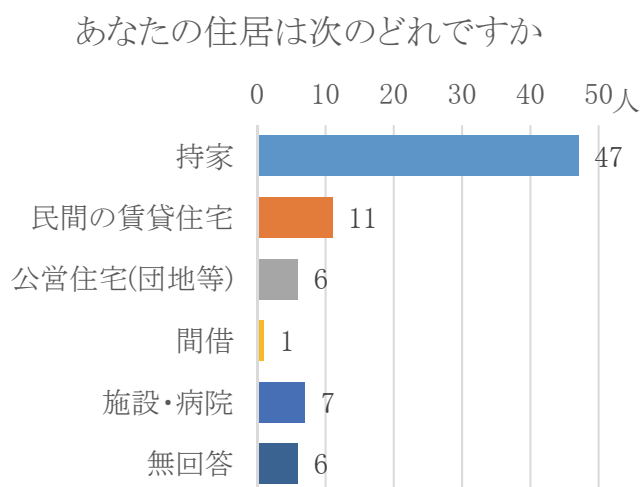
人数 その他内容

- 
- 1 障がい者になり昇進、昇格が絶望的
  - 1 出張先のトイレ及び、排尿、排便のコントロール
  - 1 排便に時間が掛かり、翌日の出勤が遅れたり、寝られない事もある為、疲れが溜まる

## VI. あなたの住居について

【Q43】 あなたの住居は次のどれですか。

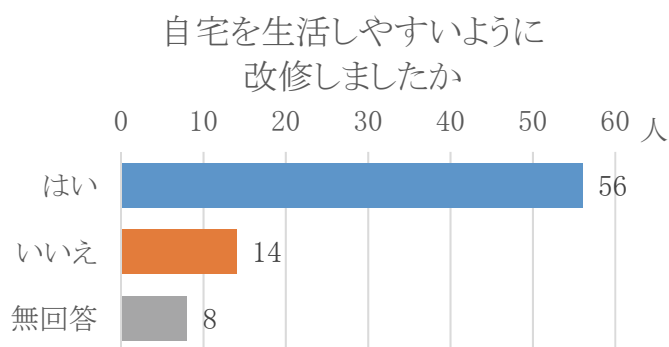
回答	人数	割合
持家	47	60.3%
民間の賃貸住宅(アパート等)	11	14.1%
公営住宅(団地等)	6	7.7%
間借	1	1.3%
施設・病院	7	9.0%
その他	0	0.0%
無回答	6	7.7%
合計	78	100.0%



「持家」が 47 人(60.2%)と前回調査 47 人(58.0%)と同数で、住宅改修等の必然性から持家比率が高いと思われる。「施設・病院」が 7 人で前回調査では 14 人と半減した。住居の形態は異なるが地域において在宅における生活を送っている人は 65 人(83.3%)だった。8 割を超える人々が在宅生活を送っている。

【Q44】 あなたが脊損になってから自宅は生活しやすいように改修しましたか。

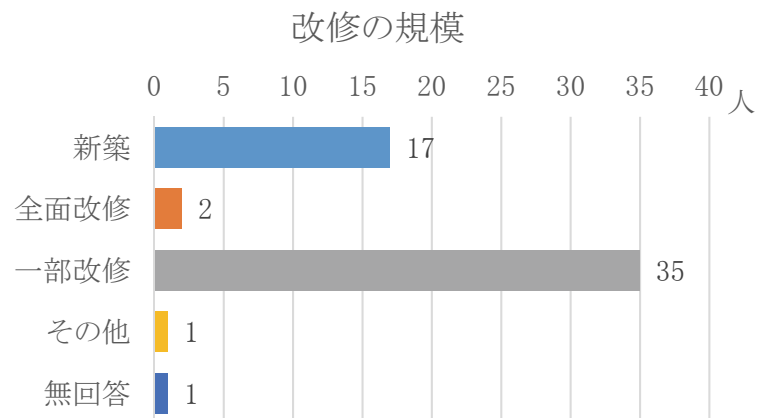
回答	人数	割合
はい	56	71.8%
いいえ	14	17.9%
無回答	8	10.3%
合計	78	100.0%



改修した人は 56 人(71.8%)で、前回調査の 59 人(72.8%)とほぼ同じだった。「いいえ」も 14 人(17.9%)前回調査と同じだった。無回答の 8 人の住居形態は在宅であり、要介護状態の者だった。脊損者にとっては在宅生活に住宅改修は必然的なこととわかる。

【Q45】 Q44で「はい」と答えた方におたずねします。その改修の規模は次のどれですか。

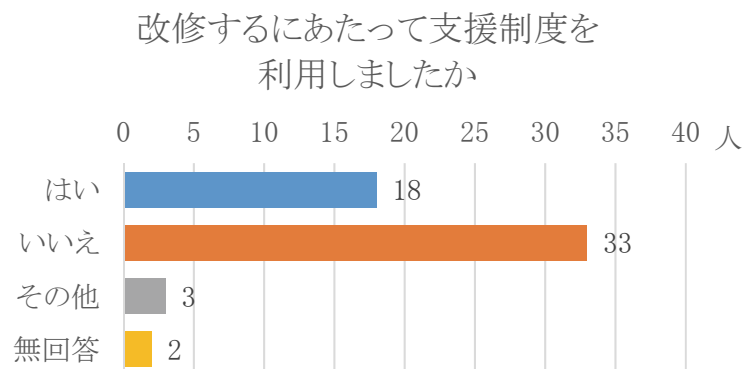
回答	人数	割合
新築	17	30.4%
全面改修	2	3.6%
一部改修	35	62.5%
その他	1	1.8%
無回答	1	1.8%
合計	56	100.0%



人数	その他内容
1	引っ越して改修した

【Q46】 Q44で「はい」と答えた方におたずねします。  
改修するにあたって支援制度を利用しましたか。

回答	人数	割合
はい	18	32.1%
いいえ	33	58.9%
その他	3	5.4%
無回答	2	3.6%
合計	56	100.0%

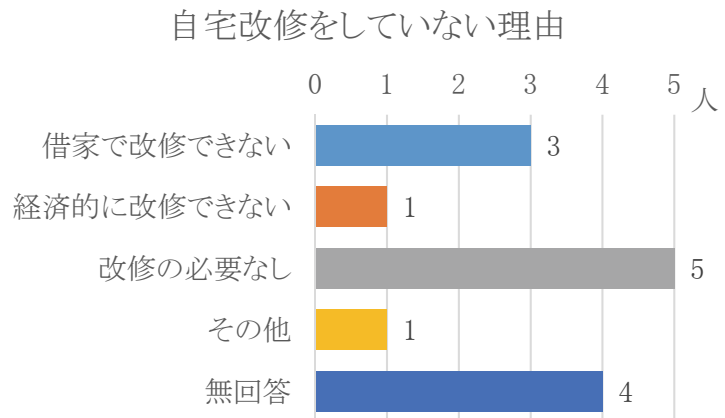


人数	その他内容
1	一部の改修費用のみ
2	祖母の時のを使用しています

改修内容については、「一部改修」が33人(58.9%)、「全面改修」が2人(3.6%)、「新築」が18人(32.1%)と前回調査とほとんど同じだった。新築と回答した17人のうち労災に認定された人は5人だった。かなりの経済的負担を負っていることが推測できる。改修時に経済的支援を受けた人は32.1%、支援を受けなかった人は58.9%だった。

【Q47】 Q44で「いいえ」と答えた方におたずねします。その理由は次のどれですか。

回答	人数	割合
借家で改修できない	3	21.4%
経済的に改修できない	1	7.1%
改修の必要なし	5	35.7%
その他	1	7.1%
無回答	4	28.6%
合計	14	100.0%

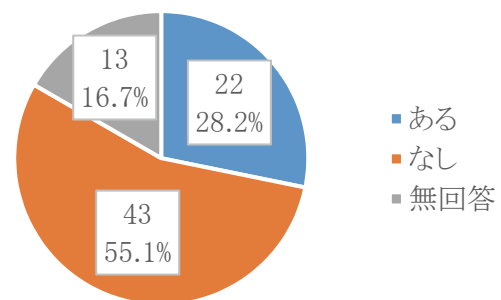


改修していない人の中で、「借家のために回収できない」人は3人(21.4%)。「改修の必要なし」と回答した人は5人(35.7%)で居住が公営住宅4人で障害者専用住宅が推測される。

【Q48】 あなたは住宅について現在特に悩んでいることはありますか。

回答	人数	割合
ある	22	28.2%
なし	43	55.1%
無回答	13	16.7%
合計	78	100.0%

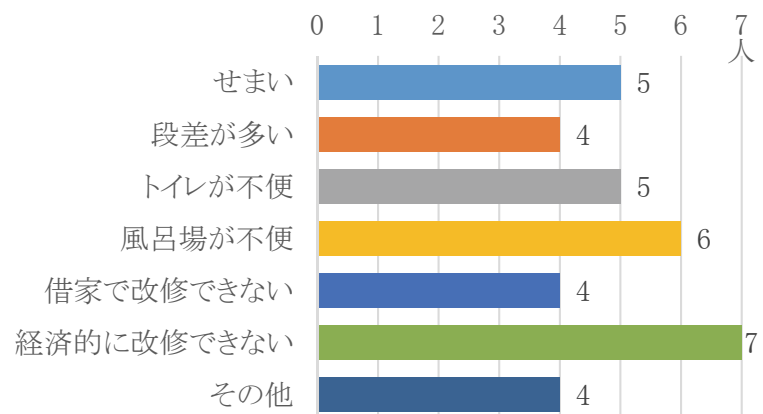
住宅について現在の悩みの有無



【Q49】 Q48で「いいえ」と答えた方におたずねします。あなたは住宅について悩んでいることはありますか。

回答	人数
せまい	5
段差が多い	4
トイレが不便	5
風呂場が不便	6
借家で改修できない	4
経済的に改修できない	7
その他	4

住宅について悩んでいること(内訳)





人数 その他内容

---

- 1 非常時の対応に不安がある
- 1 駐車場に屋根がないため乗り降りでぬれる
- 1 高い場所の収納が届かないため、低い場所に物が散らかる。
- 1 キッチンが車椅子を横付けでしか使えないため、使用しづらい。

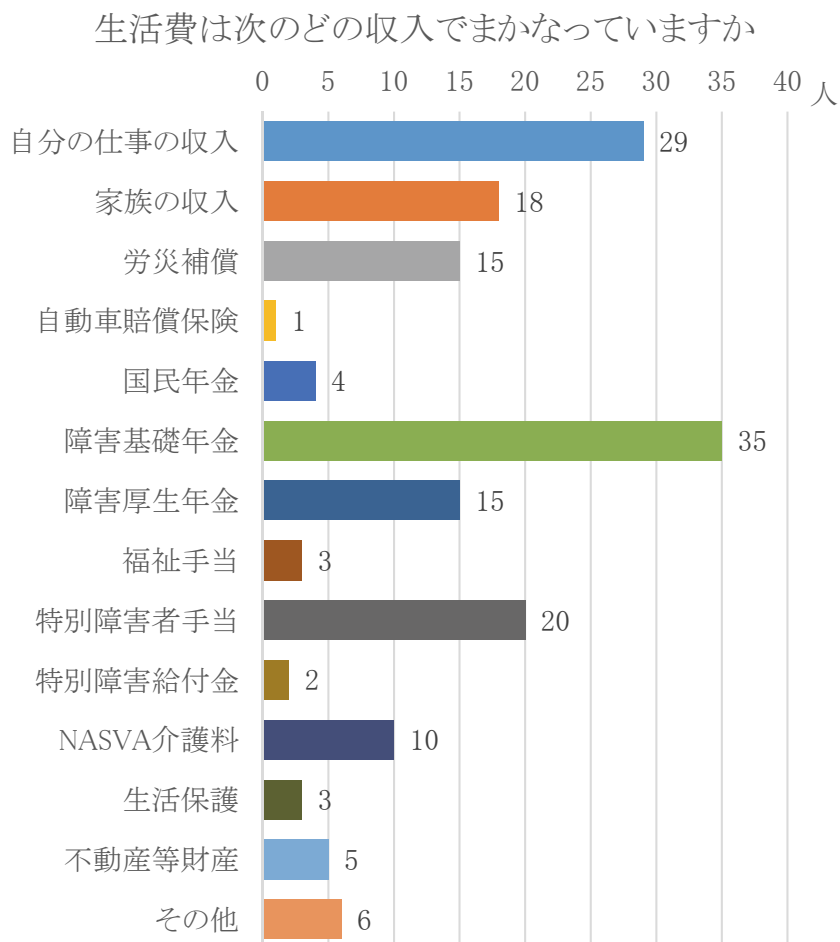
狭い、段差があるなど、日本の家屋の特徴が肢体不自由者の生活にマッチしないことがわかる。また、その他の回答から、室内だけでなく駐車場に屋根がないといった課題もあることがわかった。

## VII. あなたの生活保障についてお聞きします

【Q50】現在のあなたの生活費は次のどの収入でまかっていますか。(複数回答)

回答	人数
仕事の収入	29
家族の収入	18
労災補償	15
自動車賠償保険	1
国民年金	4
障害基礎年金	35
障害厚生年金	15
福祉手当	3
特別障害者手当	20
特別障害給付金	2
NASVA 介護料	10
生活保護	3
不動産等財産	5
その他	6

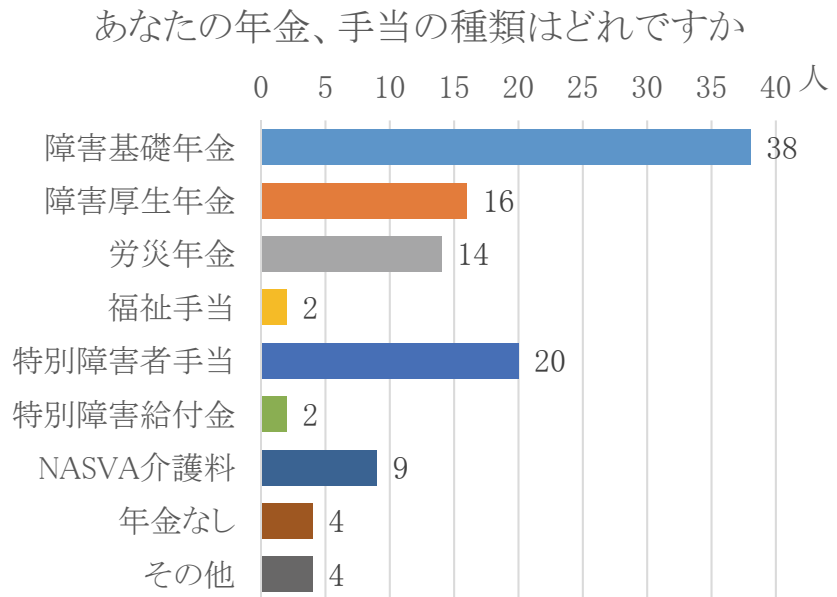
人数	その他内容
1	障害者手当無し
1	障害共済年金
1	厚生年金
1	基礎年金
1	株



障害基礎年金が 35 人(44.8%)と約半数が受けていて所得基盤となっているのが分かる。自分の収入は 29 人で前回調査 20 人から増えている。今回の設問で新たに入れた項目が「NASVA 介護料」で受給者が 10 人。「不動産等財産」が 5 人だった。労災補償 15 人は全国脊髄損傷者連合会各県支部会員の労災補償者比率からすると低い状況のようだった。

【Q51】 あなたの年金、手当の種類はどれですか。

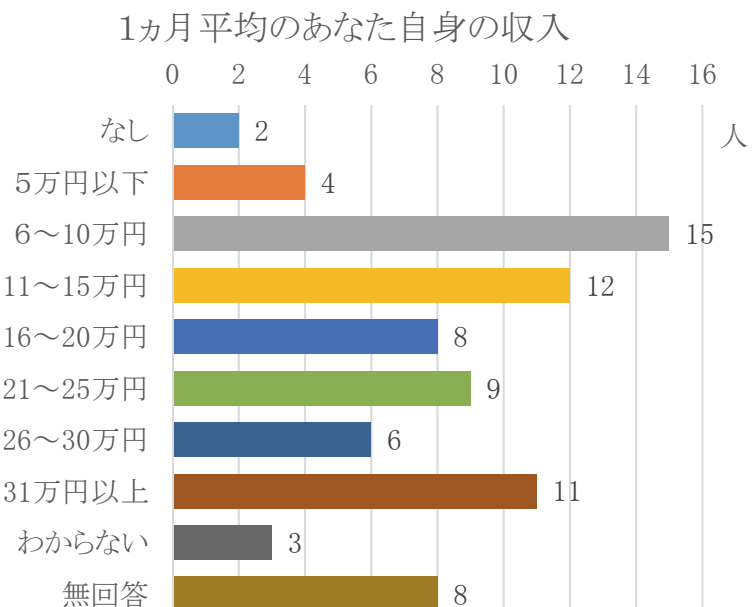
回答	人数
障害基礎年金	38
障害厚生年金	16
労災年金	14
福祉手当	2
特別障害者手当	20
特別障害給付金	2
NASVA 介護料	9
年金なし	4
その他	4



複数回答であるが、最も多いのは「障害基礎年金」の 38 人だった。次いで、「特別障害者手当」20 人(25.6%)、「障害厚生年金」16 人、「労災年金」14 人が続いた。「年金なし」4 人だったが、項目を「無年金」としなければ、実質的な無年金者の人数把握にならなかったため次回は考えたい。

【Q52】 現在のあなた自身の収入は賃金や年金も含め、全部で1ヵ月平均どれぐらいですか。

回答	人数	割合
なし	2	2.6%
5万円以下	4	5.1%
6～10万円	15	19.2%
11～15万円	12	15.4%
16～20万円	8	10.3%
21～25万円	9	11.5%
26～30万円	6	7.7%
31万円以上	11	14.1%
わからない	3	3.8%
無回答	8	10.3%
合計	78	100.0%



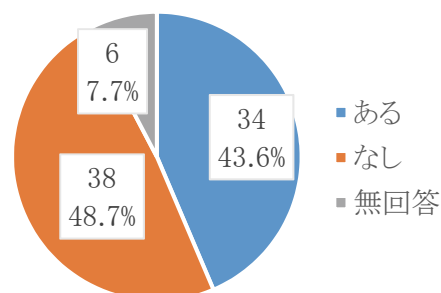
最も多かったのは「6万円～10万円」の 15 名(19.2%)で、前回調査の 21 人から減少している。以下、「16 万以上～31 万以上」は全て前回調査より回答が多かった。10 年で一定の所得向上になった事が推測される。労災年金の方が比較的高所得で無年金者との格差があることが明らかになった。

## VIII. 社会サービス利用等について

【Q53】 現在、障害者総合支援法における福祉サービス並びに、介護保険法における福祉サービスについてお聞きします。障害者総合支援法や介護保険法における福祉サービスを受けたことがありますか。

回答	人数	割合
ある	34	43.6%
なし	38	48.7%
無回答	6	7.7%
合計	78	100.0%

福祉サービスを受けたこと

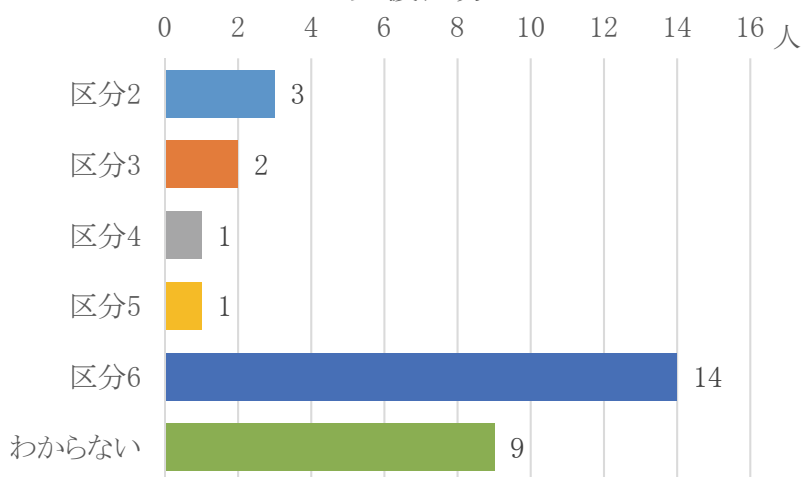


「ある」が 34 人(43.6%)で、前回調査では 23 人(28.4%)から増え社会サービス利用が促進されていることがわかる。「なし」38人(48.6%)のうち胸髄損傷が 12 人で、腰髄・仙髄が 5 人だった。また、移動手段が自家用車の方が 30 人と自力移動手段があることでサービス利用必要性が無いことが推測できる。

【Q54】 あなたの障害支援区分並びに要介護度区分はどれくらいですか。

回答	人数	割合
区分 1	0	0.0%
区分 2	3	4.2%
区分 3	2	2.8%
区分 4	1	1.4%
区分 5	1	1.4%
区分 6	14	19.7%
わからない	9	12.7%
無回答	48	67.6%
合計	71	100.0%

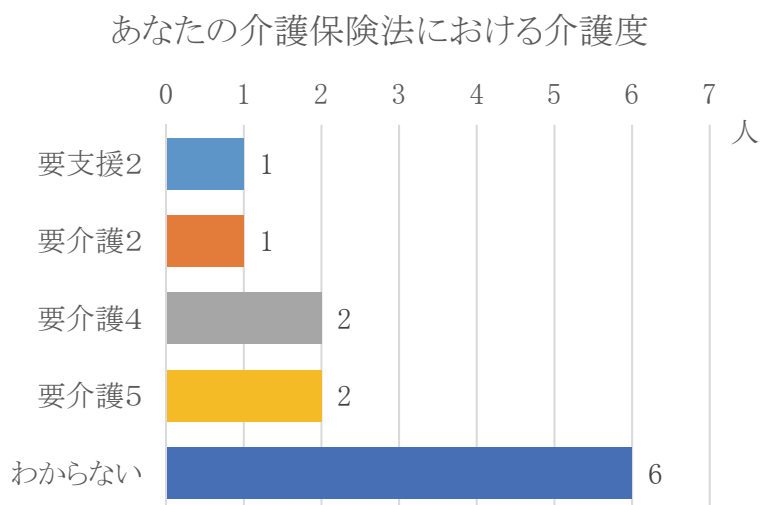
あなたの障害者総合支援法における障害支援区分



脊損者は介護保険制度では特定疾病に該当しない。65 歳以前で自立支援法の介護サービス利用していた脊損者が 65 歳到達と同時に介護保険サービスに移行するとサービス量が減少するケースが多く、サービス不足になる状況に困惑する脊損者からの相談もある。この「65 歳の壁」問題にも実態把握し制度問題へのアクションも必要と考える。

【Q55】 あなたの介護保険制度における介護度はどれですか。

回答	人数	割合
要支援1	0	0.0%
要支援2	1	1.3%
要介護1	0	0.0%
要介護2	1	1.3%
要介護3	0	0.0%
要介護4	2	2.6%
要介護5	2	2.6%
わからない	6	7.9%
無回答	66	86.8%
合計	76	100.0%



「脊柱管狭窄症」は対象となることから介護保険制度利用ありきがよいのかを事前に学ぶように促すことも沖脊協の役割ではないだろうか。

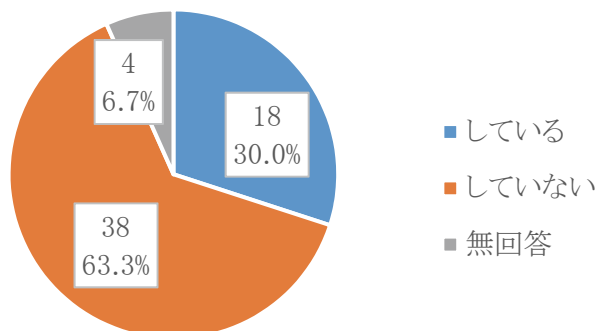
両方共に利用している方は 2 人いた。現制度では、原則、介護保険優先利用で要介護 5 でサービス量上限以上の場合に上乗せで自立支援法のサービスが利用できるもので稀な事例ではあるが、今後は併用利用している脊損者のヒヤリングなどで課題等の掘り起こしの必要性を感じた。

## IX. 楽しみや生きがいについてお聞きします

【Q56】あなたは現在スポーツを行っていますか。

回答	人数	割合
している	18	30.0%
していない	38	63.3%
無回答	4	6.7%
合計	60	100.0%

現在スポーツ活動を行っていますか

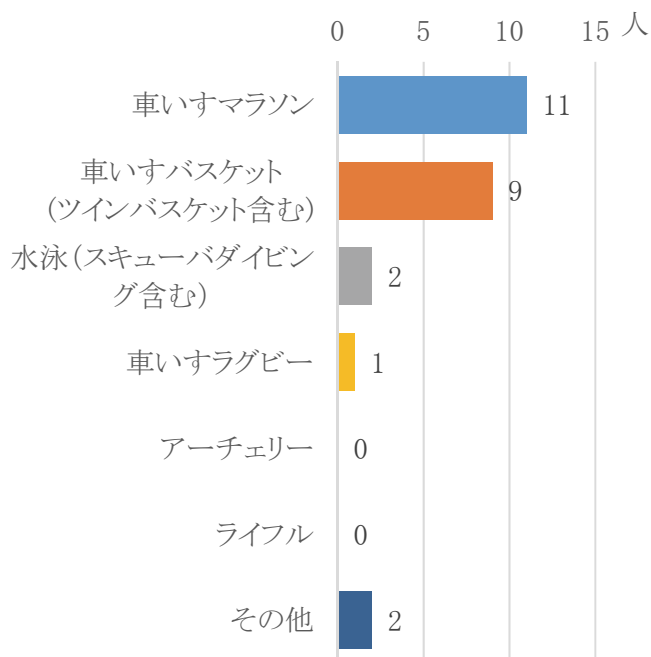


「している」が18人、前回調査では42人でしたので大きく減少し各種目で減少している。その理由には、2009年度に沖脊協が沖縄県の補助をうけて実施した「沖縄県における障害者スポーツの振興に関する実態調査」において、把握された課題に①障がい者スポーツ拠点が少ない②障がい者スポーツ活動を支えてくれる人材(競技審判員や監督・コーチ等)不足③競技用車いすの負担過重とあり、広がらない現状が明らかになっている。

【Q57】Q56で「1. している」と選択した方におたずねします。行っている活動について、該当するものすべてに○をつけてください。(複数回答)

回答	人数	割合
車いすマラソン	11	44.0%
車いすバスケット(ツインバスケット含む)	9	36.0%
水泳(スキューバダイビング含む)	2	8.0%
車いすラグビー	1	4.0%
アーチェリー	0	0.0%
ライフル	0	0.0%
その他	2	8.0%
合計	25	100.0%

行っているスポーツ活動



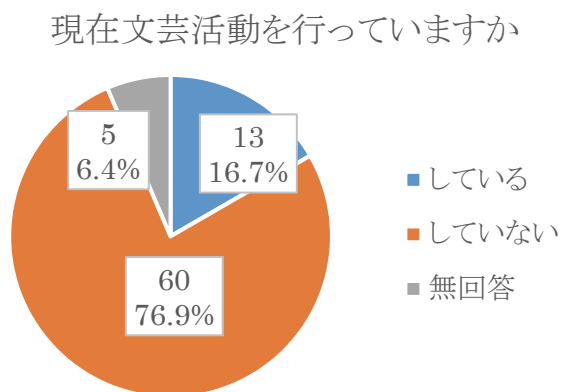
人数 その他内容

- 1 車いす卓球
- 1 ボッチャ、車いすサッカー

スポーツをしている総数が 25 人。前回調査では 50 人で半減している。特に車いすマラソン、バスケット、ラグビーは総じて減少した。全国では 2020 東京パラリンピックに伴い多種目の競技が普及・向上しているといわれるが、今回調査と前回調査を比較して、新たなスポーツ種目は無かった。運動不足になりがちな脊損者は、スポーツを通して健康の維持・向上が必要で生涯リハビリテーションとして欠かせないと言われていることから、車いすスポーツの普及促進を重要な事業として取り組む必要性があると考えます。

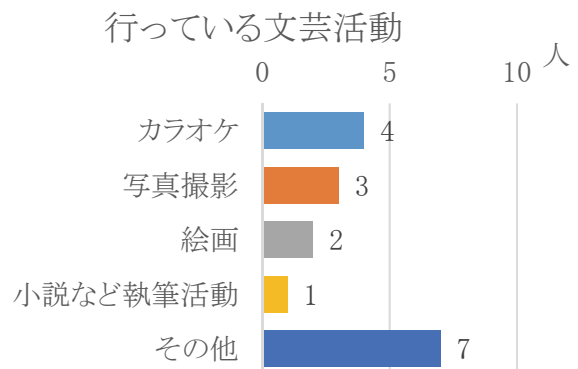
【Q58】あなたは現在文芸活動を行っていますか。

回答	人数	割合
している	13	16.7%
していない	60	76.9%
無回答	5	6.4%
合計	78	100.0%



【Q59】 Q58で「1.している」と選択した方におたずねします。行っている活動について、該当するものすべてに○をつけてください。(複数回答)

回答	人数	割合
カラオケ	4	23.5%
写真撮影	3	17.6%
絵画	2	11.8%
小説など執筆活動	1	5.9%
その他	7	41.2%
合計	17	100.0%

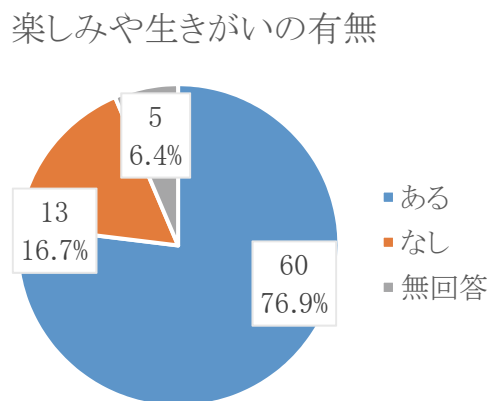


人数	その他内容
1	木工、雑貨作り
1	ハーモニカ演奏
1	バンド活動
1	書道サークル
1	将棋
1	三線
1	コラム

文芸活動しているが 13 人(16.7%)となった。前回調査の 8 人から増えていて、ライフスタイルの多様化が表れている。沖脊協活動としても今後は趣味活動を新たな取り組みとして検討する必要性がある。

【Q60】 現在あなたは生活上の楽しみや生きがいを持っていますか。

回答	人数	割合
ある	60	76.9%
なし	13	16.7%
無回答	5	6.4%
合計	78	100.0%

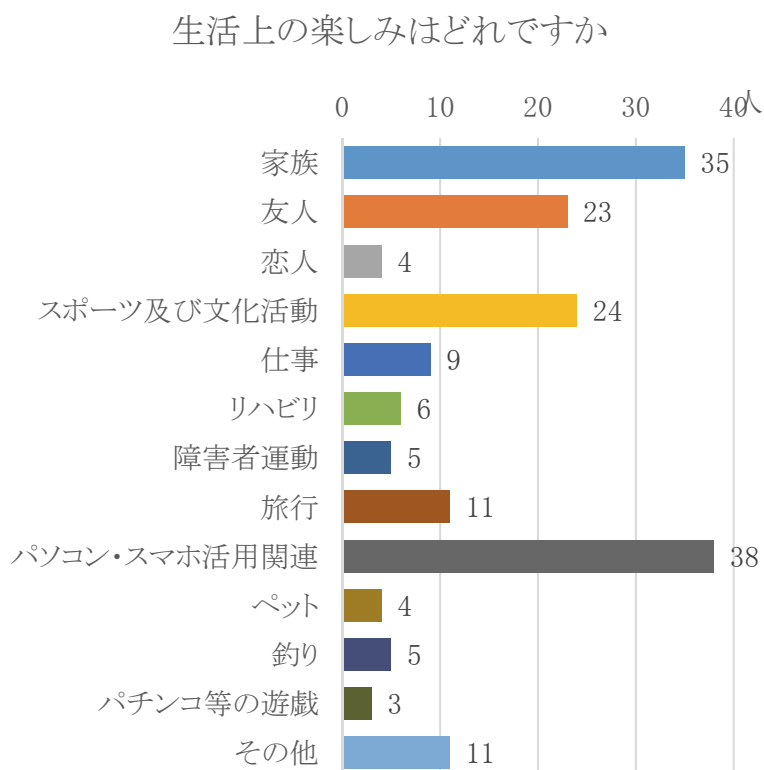


生活上の楽しみや生きがいが「ある」と回答した人は 60 人(76.9%)、「ない」と回答した人は 13 人(16.7%)だった。前回調査で 86.4%があると回答。過去の調査と比較するとほぼ同じ結果だった。

【Q61】 Q60で「1.ある」と選択した方におたずねします。

生活上の楽しみや生きがいは次のどれですか。(複数回答)

回答	人数
家族	35
友人	23
恋人	4
スポーツ及び文化活動	24
仕事	9
リハビリ	6
障害者運動	5
旅行	11
パソコン・スマホ活用関連	38
ペット	4
釣り	5
パチンコ等の遊戯	3
その他	11





人数	その他内容
1	TV、DVD、酒
1	キリスト教会活動
1	ボランティア活動
1	マンガ、テレビ
1	ラジオ視聴
1	家庭菜園
1	車椅子でのランニング
1	趣味の読書とパソコン関係
1	読書・ビデオ鑑賞等
1	宝くじ
1	漫画とテレビとパソコン

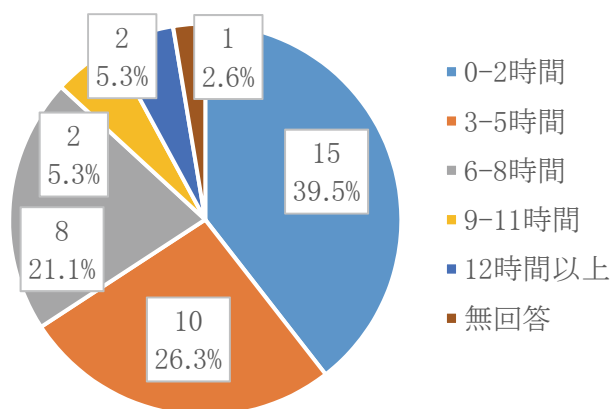
楽しみや生きがいの内容は、「パソコン・スマホIT活用」が 38 人とトップ。前回調査では 22 人で 4 位だったことから、IT 化時代の潮流が推測される。2 位以下は「家族」35 人、「スポーツ文化活動」24 人、「友人」23 人の順となり、パソコン・スマホ IT 活用以外では前回調査と同じ結果である。家族、友人といった人とのつながりが生きがいにもつながっていることは大切な視点とした。

【Q62】 Q61 で「パソコン・スマホ活用関連」と答えた方にお聞きします。

1日のだいたいの利用時間をお答えください。

回答	人数	割合
0-2 時間	15	39.5%
3-5 時間	10	26.3%
6-8 時間	8	21.1%
9-11 時間	2	5.3%
12 時間以上	2	5.3%
無回答	1	2.6%
合計	38	100.0%

1日の利用時間 (PC・スマホ)

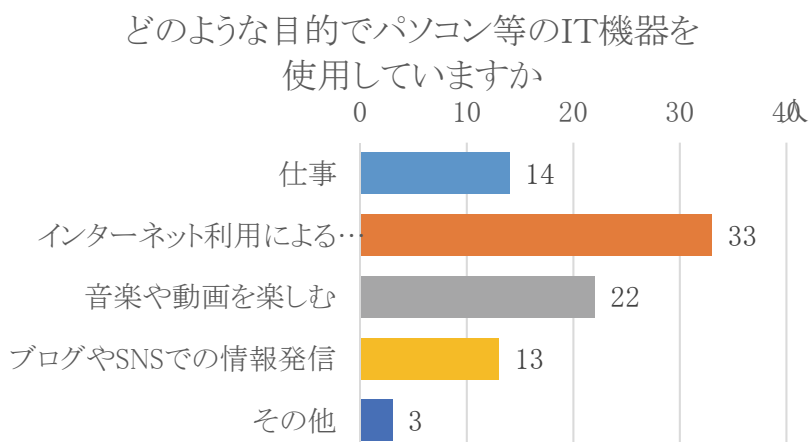


パソコン等IT機器の活用を生きがいに加えている人たちの利用時間は時間から時間まで千差万別だった。あえて言えば、「1 時間から 3 時間」の時間帯に 4 割強の回答があった。

【Q63】 Q61で「パソコン・スマホ活用関連」と答えた方にお聞きします。

どのような目的でパソコン等のIT機器を使用していますか。(複数回答)

回答	人数
仕事	14
インターネット利用による情報収集	33
音楽や動画を楽しむ	22
ブログやSNSでの情報発信	13
その他	3



人数 その他内容

- 1 仕事も含む?
- 1 コラム
- 1 買物

IT機器を活用することを生きがいに加えている人たちが複数回答で回答した結果、8割が「インターネット」を楽しんでいた。次に「音楽や動画」を楽しむ、「ブログ」を楽しむことが続いた。次に「仕事」と回答した人が14人となり、前回調査に比較して全ての項目が増えている。社会のIT化による生きがいの思考も生活に深くかかわっていることが推測される。

【Q64】 Q61で「パソコン・スマホ活用関連」と答えた方にお聞きします。

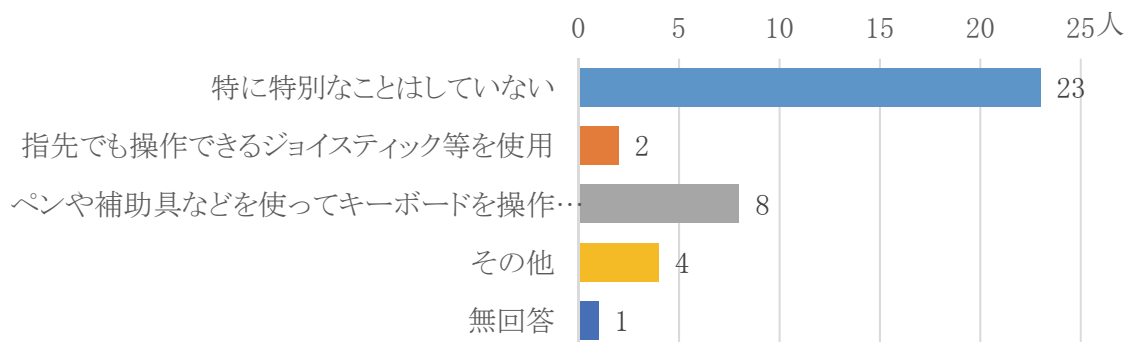
パソコンを操作するときに、どのような方法で操作していますか。

回答	人数	割合
特に特別なことはしていない	23	60.5%
指先でも操作できるジョイスティック等を使用	2	5.3%
呼気スイッチ等を使っている	0	0.0%
音声認識ソフトを利用して操作している	0	0.0%
ペンや補助具などを使ってキーボードを操作している	8	21.1%
その他	4	10.5%
無回答	1	2.6%
合計	38	100.0%

人数 その他内容

- 1 ショートメール
- 2 トラックボール(マウス)を使用
- 1 口にタッチペンを銜えてタッチパッドで操作している

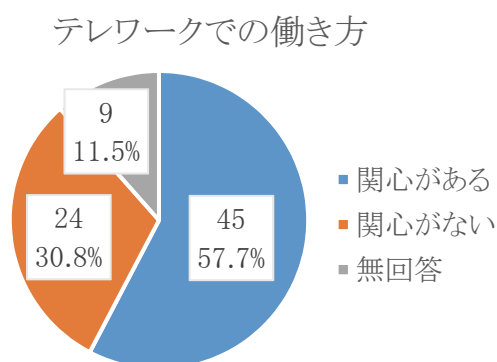
### パソコンをどのような方法で操作していますか



半数以上(60.5%)が特別な補助機器を必要としていなかったが、「ジョイスティック」など指先で操作できるものや「呼気スイッチ」2人、「ペン」などの補助具を使用している人が8人となって併せて10人で、前回調査の6人からは増え、多様なIT環境支援機器を活用するようになってきた。

【Q65】 現在テレワーク(在宅や移動先で働くこと)の働き方が広がっていますが、関心がありますか。

回答	人数	割合
関心がある	45	57.7%
関心がない	24	30.8%
無回答	9	11.5%
合計	78	100.0%

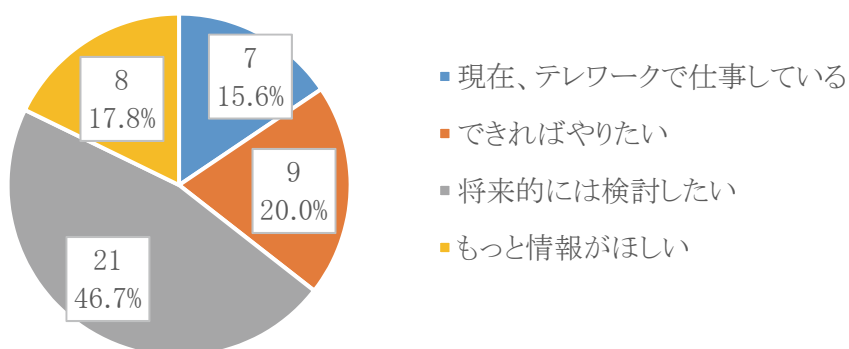


「関心がある」が45人(57.7%)と半数を超え、「無回答」が9人。前回調査では無回答が最も多く33人(40.7%)で、「ある」が29人(35.8%)だったことから、在宅就労の認知度が高まってきて、就労の可能性が広がってきていることが推測できる。「関心がない」が24人とあり、回答者の年代は50代と60代で17人でした。

【Q66】 Q65 で「関心がある」と選択した方におたずねします。どのような関心がありますか。

回答	人数	割合
現在、テレワークで仕事している	7	15.6%
できればやりたい	9	20.0%
将来的には検討したい	21	46.7%
もっと情報がほしい	8	17.8%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	45	100.0%

どのような関心がありますか (テレワーク)



(【58】で「関心がある」と答えた方にお聞きします。)

【60】関心がない理由は次のどれですか。

(【58】で「関心がない」と答えた方にお聞きします。)

「将来的には検討したい」が 21 人(46.7%)だった。年代別には 50 代が 14 人でうち 60 代 2 人、40 代 3 人、30 代 2 人だった。障がい部位では頸髄損傷が 11 人と重度障がい者に関心が高い状況である。現在、テレワークで仕事してるが 7 人(20%)いたことは予想外に多く、うち 10 人が頸髄損傷だった。

【Q67】 Q65 で「関心がない」と選択した方におたずねします。どのような関心がない理由は何ですか。

回答	人数	割合
通勤が良い	2	8.3%
障害が重くてできると思わない	7	29.2%
その他	2	8.3%
無回答	13	54.2%
合計	24	100.0%

人数	その他内容
1	高齢だから
1	特に必要を感じていない

「障害が重くてできるとは思わない」が7人。うち6人が「外出に悩んでいる」を選択していた。また、障がい部位が6人が頸髄損傷だった。

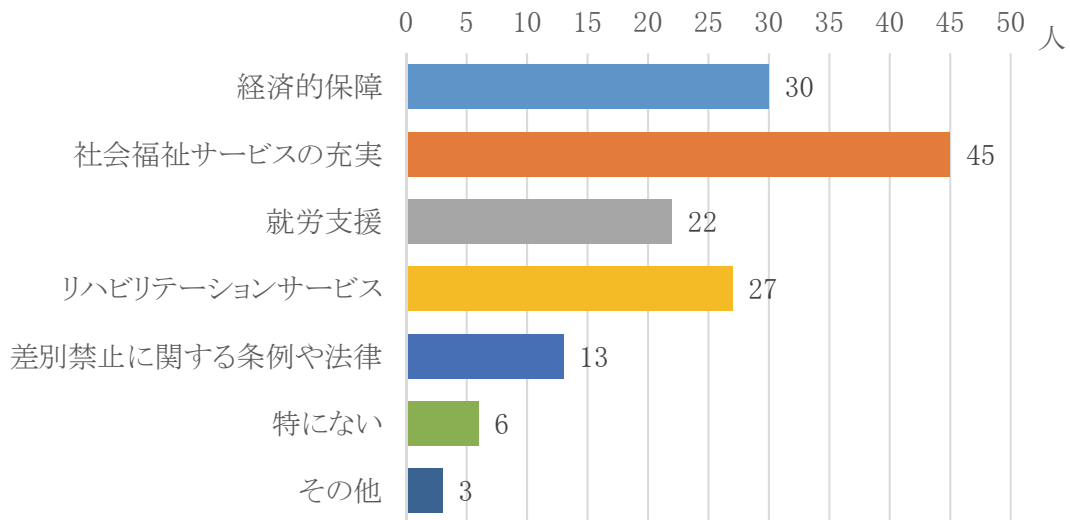
【Q68】 昨今、障害者福祉施策も大きく変わろうとしています。

そこで今日の行政に期待することは何ですか。(複数回答)

回答	人数
経済的保障	30
社会福祉サービスの充実	45
就労支援	22
リハビリテーションサービス	27
差別禁止に関する条例や法律	13
特にない	6
その他	3

人数	その他内容
1	障がい者に優しい社会作り。
1	ボランティアの養成
1	何も期待していない。

今日の行政に期待することは何ですか



今日の行政に期待することは「社会福祉サービスの充実」が 45 人で、前回調査の 40 人から増えた。次に「経済的保障」が 30 人で前回調査では 41 人とトップだったが減少した。就労率の向上、所得保障の充実や給付制度の創設が好影響だったと思われる。しかしながら、沖縄県の無年金発生率の高さからは経済的自立又は所得保障に関するソーシャルアクションは必要と考える。

「就労支援」22 人、「リハビリテーションの充実」27 人と期待する声が高いことから、引き続き取り組む必要がある。

「差別禁止に関する条例や法律」にも関心が示され、障害理解を広げること、外出時にも安心してトイレが使える環境等のバリアフリー社会及び共生社会づくりに向けた活動は重要であり期待されている。

その他、沖脊協の会活動についての要望や、この調査についてのご意見等がありましたらお書きください。

利用できる制度やサービスの情報がほしいです。協会などに所属してないので、自分で調べないと全く情報がなくわからないことが多いです。例えばスポーツができる施設や日常生活が楽になるグッズなど…。発病してからずっと自分で調べてやっているのもっと色々な情報がほしいです。
沖脊協でも問題にしている事ですが、外出した時の駐車場に困る事があります。ちなみに那覇メインサンエーは、警備員がいるので、いつでも駐車できるのでとても助かります。他のショッピングセンターでも同様にできればと思います。最近オープンしたパルコサンエーは駐車場が多いのですが障がい者用スペースに警備員がいないためか空きがなく困りました。ストレスなく、外出ができる日を願っています。
私は、いつも色んなことで悩み苦しむ色んな人に助けてもらってきました。これからも、色んな事に悩み苦しむ一人暮らしをしていくと思いますが、その時は脊損の皆様アドバイスを
60を過ぎてからの体力維持は、どのような事をして維持しているか聞きたい。
就労支援にあらゆる形で力を入れてほしい。
自分は準会員ですが、いつ会費を払ったか解らない いつ払えばいいか解らない 別の会に入っているけど半年に一度、名簿と年度の標があり、払った人は○が付いているのでこれで確認できる。会報などもよく送ってもらっているので年会費はしっかり収めたいと思っています。なんだかの方法で支払、未納の有無を解るようにしてほしいです。
すぎて歩けなくなった(63の時) パソコンのお勉強がしたいと思った時、年齢で対象外だったことがショックでした。
脊損でも不全マヒの方は沖脊協につながってなう。障害受容ができない人が多いと感じる。(病院で外来の相談をよくうける) 不全の方のピアサポもいらっしゃるといいなと思う。困った時はいつも助けてもらって感謝しています。ダイビングで今年はセブ島、パラオ、に行けました。障害があっても人生は楽しい事が、多くの人に伝わればいいと思う。再生医療の情報もあればそのつど出してほしいです。
離島での車椅子購入、修理がたいへんです。サービス利用が大変なので自腹です。
チェック箇所多数！ ホッチキス止めが逆で作業がやりにくい。沖脊協のそんざいを知らなかったのも、このような団体がある事を発信してほしい。
ピアサポートで救われました。私でできることはいつでもお声掛けください。
子どもの施設のバリアフリー情報がほしい

## 第3章 調査結果まとめと今後の課題

### 1. 今回の調査の特徴

①第1回(1993年度)と第2回(1998年度)調査は対象者情報を身体障害者手帳の脊髄障がい記載者としていたが、第3回からは個人情報保護による規制により、対象者が会員と施設入所、入院等を対象に不特定で記名しない形式で限定的となり回答率が落ちた。今回調査でも同様な対象者だったこともあり、回答者が78名と目標150名には程遠い結果となった。特に離島の方々の回答が得られなかったことは反省するところである。

②前回の調査(2009年度実施)と比較しながら分析した。前回同様に10年の経過があることから時代の変遷に注視し、社会サービスの充実、ライフスタイルの変化に伴い一人暮らしが増えたことによる生活ニーズ、医療の進化に伴う治療状況等を分析するための新たな設問を多く設定した。

③前回調査は分析軸がひとりであるかどうか、障害が重度か軽度かという視点、つまり医学モデルの視点が強かったが、今回調査は、医学モデルの視点から社会生活の状況を重視する社会モデルの視点にシフトした。

④今回は離島地域に住む回答者のニーズについて声を集めることも目標とした。しかし、結果として、2人からしか声を集めることができなかった。次回の課題としたい。

### 2. 調査結果からみた特徴

①回答者の年代について、前回調査では50代がトップで構成率33.8%(23人)、次に40代の23.5%だったのが、今回調査ではトップは変わらず50代(37.1%)だったが、次が60代の17人(27.4%)となり、高齢化が顕著だったことと、全国的な傾向である頸髄損傷の増加(前回51.9%→今回57.7%)が顕著で、頸髄損傷部位内訳C3～C5の常時介護が必要な方の比率が57.3%と半数を超えていた。

②在宅者の中での「一人暮らし」9人のうち頸髄損傷5人でC4の1人もいた。前回調査では頸髄損傷2人から増えた要因に、今日のホームヘルパー等の福祉サービス充実が大きく寄与していると推測される。

③介護者について、ホームヘルパーが18人で最も多く、前回調査の10人から倍増に近い。次に配偶者が16人と前回調査10人から増えた。一方、施設介護は7人で前回調査では11人と最も多かったが減少した。また、今回調査項目で新規だった訪問看護も12人と多く、在宅サービス利用の傾向が顕著だった。

④脊損者で最も悩ましいのは排泄失禁である。「毎日」～「年に数回」を合わせると60%を超えていて、日常的に不安を抱えていることが推測でき、頸髄だからという事ではなく、胸髄、腰髄含めて全体的な悩みとなっている。特に排尿失禁が毎日12人もいることは排泄方法の情報提供の必要性を強く感じる。

⑤入院について、4年以内あると回答したのは35人(44.9%)と高く、日常的に医療との関わりが深く体調や健康管理の必要性が顕著であった。入院理由はやはり尿路感染、尿管炎、腎炎、結石といった排泄に関連した病状が多くみられた。入院日数では骨折や褥瘡が長期になっている。



⑥自家用車の所有率が高かった。主たる移動手段は自家用車で、自家用車がない人は少数だったが、沖縄の場合、自家用車があるとないのとでは移動の頻度に格差があることが推測できる。また、ゆいレールや介護タクシー等の公共交通の充実によって、利活用が図られている。

⑦身体状況(要介護、排尿・排便のコントロール)と仕事や趣味、外出とは深く関連していることが改めて明らかになった。排便、排尿が日々の生活や人生に与える影響が大きいことを社会の側がもっと理解する必要がある。

⑧雇用されている方が過去調査毎に増加している。法定雇用率の強化、就労支援サービスの充実化等、働く環境整備が図られている。就業時間数が増え、給与水準も向上している。一方では、職場における障害の理解やバリアフリー化が不十分で定着しない状況もあった。

⑨経済状況については、就業所得や介護給付(NASVA)、自営等所得の向上によって、充実化の傾向ではあるが、一般的な所得状況とは格差があり、生活保護脱却も含めた生活支援の必要性がある。

⑩介護サービス等利用において、障害者自立支援法と介護保険制度との「65歳の壁」問題等の制度の狭間で困惑している状況が推測される。

⑪スポーツ活動について、社会背景として2020東京パラリンピック等による普及促進が図られているが、調査からは、スポーツ活動しているせき損者の減少に歯止めがかからない状況がある。一方、文化芸術活動は多様な参加促進があり増えている。特に生活上の楽しみに「パソコン・スマホ等のIT活用」が増加しており、生活にも仕事にもインターネット、SNS等が浸透している状況があった。

⑫見えてこなかった「テレワーク」が実際多くの頸髄損傷者の雇用につながって、実際の仕事内容が知られるようになり、昨今の国の「働き方改革」等も相まって、働く可能性として「テレワーク」の関心が高まっている。特に多くが移動困難だった高位頸髄損傷者の関心が高い。

### 3.まとめ

全国的に県単位での脊髄損傷者の生活実態調査は稀であり、定期的調査は時代の変遷の中での生活状況変化を明らかにする意義は大きいと考える。しかしながら、個人情報保護の壁によって、対象者情報が特定することができなく、会員と施設入所、病院入院や通院の方々への不特定の無記名とした調査呼びかけとなり、回答率が35.9%と低かったことは残念なことで、社会人口の高齢化の中で、新たに脊損者となった方々、特に高齢期の脊損者へのサポートアプローチが対応できていないことは今後のピアサポート活動のニーズ視点の変革をする必要性を強く感じている。

脊損者が日常的に抱えている身体不安、特に排泄コントロールに対する情報について最新の福祉用具や医療情報を提供する役割がある。また、今回、日常における体調管理として、入院歴等のことを新たに設問したところ、多くの方が入院していたことがわかったことと、特定検診・人間ドックの受診をしていない方も3割いたことから日常の体調の自己管理についても情報提供や相談対応の役割があることを確認することができた。

さらに、調査においては行政への要望や政策提言が少なかったが、介助体制の充実など、沖縄県脊髄損傷者協会から提言できるアクションは数多くあると思われる。実際、当事者の高齢化と並行して介助者の高齢化が推測される中、配偶者や親に期待することが年々難しくなっていく。県内の当事者団体の中でもリーダー的存在として期待されている沖縄県脊髄損傷者協会が果たすべき役割

はまだたくさんある。

最後に、離島地域で暮らす当事者の実態を明らかにすることができなかったのは残念だった。次回の課題としたい。

# 参 考 资 料

---

# 第4回

## 沖縄県における脊髄損傷者の生活状況に関する実態調査票

---

### アンケート調査の実施・回答について

- 御回答の内容につきましては、本事業の目的以外には利用いたしません。
- 御回答は、アンケート用紙に直接御記入ください。
- 誠に勝手なお願いではございますが、御回答いただきましたアンケート用紙は、同封の返信用封筒(切手不要)にて、令和元年8月31日までにご投函くださいますようお願いいたします。

### インターネット上でも回答できます

インターネット上でこのアンケートに回答できるWebフォームを用意しました。お手持ちのスマートフォンやタブレット、パソコンから回答できます。記述が困難な方でも短時間で回答でき、返信用封筒に入れて送り返す必要もありません。回答するには、下記のQRコードをスマートフォンで読みむか、または沖縄県脊髄損傷者協会のホームページから入って下さい。

#### QRコードはこちら



ホームページは検索で

沖縄県脊髄損傷者協会

検索



# 第4回沖縄県における脊髄損傷者の生活状況に関する実態調査票

No. \_\_\_\_\_

## I. 基礎データ

【1】 あなたの年齢と性別を教えてください。

1. 男                    2. 女

【2】 あなたの年代を教えてください。

1. 10代未満    2. 10代    3. 20代    4. 30代    5. 40代    6. 50代    7. 60代  
8. 70代        9. 80代    10. 90代

【3】 あなたが脊髄損傷「以下脊損」になったのは何歳の時ですか。

満 \_\_\_\_\_ 歳の時

【4】 あなたの脊損の受傷部位は次のどこですか。

1. 頸髄 \_\_\_\_\_ 番    2. 胸髄 \_\_\_\_\_ 番    3. 腰髄 \_\_\_\_\_ 番    4. 仙髄 \_\_\_\_\_ 番  
5. わからない

【5】 麻痺の分類について、次のどこですか。

1. 完全麻痺        2. 不完全麻痺        3. わからない

【6】 あなたの今の生活場所は次のどれですか。

1. 在宅            2. 病院            3. 施設            4. その他

(【6】で「在宅」と答えた方にお聞きします。)

【7】 あなたと一緒に生活している家族は次のどなたですか。 複数回答可

1. 父    2. 母    3. 子供 ( \_\_\_\_\_ ) 人    4. 配偶者    5. 兄弟姉妹    6. 祖父母  
7. 親類    8. なし (一人暮らし)    9. その他

【8】 あなたのお住まいの地域を市町村までお書きください。

( \_\_\_\_\_ ) 市・町・村

## II. 脊髄受傷時の状況

【9】 あなたの脊損の原因は次のどれですか。

- A. 病 気 (1. ポリオ 2. カリエス 3. 腫瘍 4. その他 \_\_\_\_\_ )
- B. スポーツ (1. 水泳 2. 体操 3. 柔道・レスリング 4. ラグビー 5. プール  
6. その他 \_\_\_\_\_ )
- C. 交通事故 (1. 自動車 2.トラック 3. オートバイ 4. 自転車  
↓ 5. その他 \_\_\_\_\_ )
- あなたは次のどの立場でしたか。  
(1. ドライバー 2. 同乗 3. 歩行者)
- D. 仕 事 けが、または病気をしたとき従事していた仕事はどれですか。  
(1. 土木・建築(重機運転含む) 2. 運送業 3. 農業 4. 漁業・海運業  
5. 自営業 6. 会社員 7. 公務員 8. その他 \_\_\_\_\_ )
- E. そ の 他 (1. 転倒 2. 転落 3. 自殺企図 4. その他 \_\_\_\_\_ )

**【10】あなたは治療・リハビリをどこで受けられましたか。 複数回答可**

- 県内 → 1. 公立総合病院 2. 民間の総合病院 3. その他 \_\_\_\_\_
- 県外 → 1. 公立総合病院 2. 労災病院 3. リハビリ専門病院  
4. 民間の総合病院 5. その他 \_\_\_\_\_

(【9】で「D. 仕事」と答えた方にお聞きします。)

**【11】労災に認定されましたか。**

1. はい 2. いいえ

(【11】で「いいえ」と答えた方にお聞きします。)

**【12】労災に認定されなかった理由はなぜですか。**

1. 知らなかった 2. 申請したが却下された 3. その他 \_\_\_\_\_

**【13】あなたは会社から慰謝料などの損害賠償を得ることができましたか。**

1. はい 2. 交渉中 3. 民事裁判中 4. 請求したが拒否された  
5. 請求しなかった 6. その他 \_\_\_\_\_



**2. 排便はどのような方法でしていますか。該当する箇所すべてに○をつけてください。**

複数回答可

1. 自力排便
2. 人工肛門
3. 盲腸ポート
4. 腹圧をかけた排便
5. 介助で排便
6. 紙おむつで対応
7. 洗腸
8. ベット上で排便
9. トイレで排便
10. ポータブル(携帯)トイレで排便

**3. 排便に要する平均時間はどのぐらいですか。**

1. 30分未満
2. 30分以上60分未満
3. 60分以上90分未満
4. 90分以上

**4. 排便を促す方法について、該当する箇所すべてに○をつけてください。**

複数回答可

1. 下剤
2. 浣腸
3. 座薬
4. 摘便
5. 洗浄便座
6. ストマ
7. 何もしない
8. その他 \_\_\_\_\_

**5. 便失禁はどのぐらいありますか。該当する番号1つに○をつけてください。**

1. 毎日
2. 週に2～3回
3. 週に1回
4. 月に1～2回
5. 年に数回
6. ない

**【18】呼吸管理について、おたずねします。**

1. 人工呼吸器を常に使用
2. 人工呼吸器を夜間など必要時に使用
3. 電気式たん吸引器を使用
4. 使用していない

**【19】呼吸管理をしている方がお答えください。台風等での停電時に困ったことがありますか。**

1. ない (その理由は \_\_\_\_\_)
2. ある (その内容は \_\_\_\_\_)

**【20】あなたは身体のことでは悩んでいることはありますか。**

1. ある
2. なし

(【20】で「ある」と答えた方にお聞きします。)

**【21】体のことで特に悩んでいることは次のどれですか。**

複数回答可

1. 障害による痛み
2. しびれ・慢性的な痛み
3. 痙攣または痙性
4. 頭痛
5. 排尿
6. 排便
7. 床ずれ
8. 性生活
9. 睡眠障害
10. その他 \_\_\_\_\_



(【20】で「ある」と答えた方にお聞きします。)

【22】悩み事を相談するために、精神科や心療内科等へ診察の経験がありますか。

1. ある            2. なし

(【22】で「ある」と答えた方にお聞きします。)

【23】それは次のうちどれですか。 **複数回答可**

1. うつ病            2. 自律神経失調症            3. その他 \_\_\_\_\_

【24】過去1年間で健康診断や人間ドックを受けたことがありますか。

1. ある            2. ない

【25】過去4年間で入院したことがありますか。それはいつ頃ですか。

1. 1年以内 ( \_\_\_\_\_ ) 日間 (理由 \_\_\_\_\_ )  
2. 2～3年前 ( \_\_\_\_\_ ) 日間 (理由 \_\_\_\_\_ )  
3. 3～4年前 ( \_\_\_\_\_ ) 日間 (理由 \_\_\_\_\_ )

【26】受傷後から現在まで、あなたの周囲に障害についてあなたの気持ちを理解し、あなたを励ましてくれた人はいましたか。最も該当する箇所すべてに○をつけてください。

1. 特にない            2. 家族            3. ピアサポーター (沖脊協の当事者相談)            4. 友人  
5. 医師、看護師、PT、OT、などの医療職            6. ケースワーカー、ヘルパーなどの福祉関係者  
7. 職場の方々            8. その他 \_\_\_\_\_

#### IV. 移動と外出についてお聞きします

【27】あなたの移動・外出の際の交通手段は何ですか。 **複数回答可**

1. 自家用車            2. バス            3. ゆいレール            4. (介護)タクシー等  
5. 移送サービス            6. その他 \_\_\_\_\_

【28】あなたは外出について、現在特に悩んでいることはありますか。

1. ある            2. なし

(【28】で「ある」と答えた方にお聞きします。)

【29】外出について悩んでいたり、不安なことは次のどれですか。 **複数回答可**

1. 人の助けがなければ外出できない
2. 排尿・排泄が不安
3. 人目が気になる
4. 外出の費用が経済的に苦しい
5. 移送サービスが利用しにくい
6. その他 \_\_\_\_\_

## V. 就労状況について

【30】あなたは脊損になってから仕事をしたことはありますか。

1. 現在、雇用されている
2. 就労継続支援A型事業所で雇用されている
3. 自営業している
4. 求職中だが見つからない
5. 仕事の希望なし
6. その他 \_\_\_\_\_

(【30】で「現在、雇用されている」と答えた方にお聞きします。)

【31】今の仕事を見つけたきっかけは次のどれですか。

1. 就労支援事業所 (ア. 就労移行支援 イ. 就労継続支援A型 ウ. 就労継続支援B型)
2. ハローワーク
3. その他の障がい者就労支援機関
4. 就職情報誌・インターネット
5. 職業訓練校
6. 高校や大学
7. 家族・親戚
8. 友人
9. 勤めていた会社に復帰
10. 医療機関
11. 脊損の仲間
12. その他 \_\_\_\_\_

(【30】で「現在、雇用されている」と答えた方にお聞きします。)

【32】現在の勤務日数と時間はどのくらいですか。

(週に \_\_\_\_\_ 日) と (1日 \_\_\_\_\_ 時間)

(【30】で「現在、雇用されている」と答えた方にお聞きします。)

【33】現在の仕事の1カ月の収入は次のどれですか。

1. 5万円以下
2. 6万円～9万円
3. 10万円～14万円
4. 15万円～19万円
5. 20万円～24万円
6. 25万円以上

(【30】で「現在、雇用されている」と答えた方にお聞きします。)

【34】あなたは仕事について特に悩んでいることはありますか。

1. ある
2. なし

(【34】で「ある」と答えた方にお聞きします。)

【35】仕事について悩んでいることは次のどれですか。 **複数回答可**

1. 希望する職種が見つからない
2. 賃金が低い
3. 労働時間が長い
4. 通勤が困難
5. 仕事がきつい
6. 仕事内容がつまらない
7. 職場での人間関係
8. トイレやスロープ等の職場環境が不十分
9. 障がい理解の不足
10. 仕事の能力が劣る
11. 排尿・排便がうまくコントロールできない
12. 床ずれがある
13. その他 \_\_\_\_\_

(【30】で「求職中だが見つからない」「仕事の希望なし」と答えた方にお聞きします。)

【36】その理由は次のどれですか。 **複数回答可**

1. 希望する職種が見つからない
2. 賃金が低い
3. 労働時間が長い
4. 通勤が困難
5. 仕事がきつい
6. 仕事内容がつまらない
7. 職場での人間関係
8. トイレやスロープ等の職場環境が不十分
9. 仕事の能力が劣る
10. 排尿・排便がうまくコントロールできない
11. 床ずれがある
12. その他 \_\_\_\_\_

## VI. あなたの住居について

【37】あなたの住居は次のどれですか。

1. 持家
2. 民間の賃貸住宅(アパート等)
3. 公営住宅(団地等)
4. 間借
5. 施設・病院
6. その他 \_\_\_\_\_

【38】あなたが脊損になってから自宅は生活しやすいように改修しましたか。

1. はい
2. いいえ

(【38】で「はい」と答えた方にお聞きします。)

【39】その改修の規模は次のどれですか。

1. 新築
2. 全面改修
3. 一部改修
4. その他 \_\_\_\_\_

(【38】で「はい」と答えた方にお聞きします。)

【40】改修するにあたって支援制度を利用しましたか。

1. はい
2. いいえ
3. その他 \_\_\_\_\_

(【38】で「いいえ」と答えた方にお聞きします。)

【41】その理由は次のどれですか。

1. 借家で改修できない
2. 経済的に改修できない
3. 改修の必要なし
4. その他 \_\_\_\_\_

【42】あなたは住宅について現在特に悩んでいることはありますか。

1. ある
2. なし

(【42】で「ある」と答えた方にお聞きします。)

【43】住宅について悩んでいることは次のどれですか。 **複数回答可**

1. せまい
2. 段差が多い
3. トイレが不便
4. 風呂場が不便
5. 借家で改修できない
6. 経済的に改修できない
7. その他 \_\_\_\_\_

## VII. あなたの生活保障についてお聞きします

【44】現在のあなたの生活費は次のどの収入でまかなっていますか。 **複数回答可**

1. 自分の仕事の収入
2. 家族の収入
3. 労災補償
4. 自動車賠償保険
5. 国民年金
6. 障害基礎年金
7. 障害厚生年金
8. 福祉手当
9. 特別障害者手当
10. 特別障害給付金生活保護
11. NASVA 介護料
12. 生活保護
13. 不動産等財産
14. その他 \_\_\_\_\_

【45】あなたの年金、手当の種類はどれですか。 **複数回答可**

1. 障害基礎年金
2. 障害厚生年金
3. 労災年金
4. 福祉手当
5. 特別障害者手当
6. 特別障害給付金
7. NASVA 介護料
8. 年金なし
9. その他 \_\_\_\_\_

【46】現在のあなた自身の収入は賃金や年金も含め、全部で1ヵ月平均どれぐらいですか。

1. なし
2. 5万円以下
3. 6～10万円
4. 11～15万円
5. 16～20万円
6. 21～25万円
7. 26～30万円
8. 31万円以上
9. わからない

## VIII. 社会サービス利用等について

【47】現在、障害者総合支援法における福祉サービス並びに、介護保険法における福祉サービスについてお聞きします。障害者総合支援法や介護保険法における福祉サービスを受けたことがありますか。

1. ある
2. なし

(【47】で「ある」と答えた方にお聞きします。)

**【48】 あなたの障害支援区分並びに要介護度区分はどれくらいですか。**

- A. 障害者総合支援法における障害支援区分（ 区 分 \_\_\_\_\_ わからない ）  
B. 介護保険法における介護度（ 要支援 \_\_\_\_\_ 介護度 \_\_\_\_\_ わからない ）

## IX. 楽しみや生きがいについてお聞きします

**【49】 あなたは現在スポーツを行っていますか。**

1. している                      2. していない

（【49】で「している」と答えた方にお聞きします。）

**【50】 行っている活動について、該当するものすべてに○をつけてください。** 複数回答可

1. 車いすマラソン      2. 車いすバスケット(ツインバスケットも含む)  
3. アーチェリー      4. 車いすラグビー      5. ライフル  
6. 水泳(スキューバダイビングも含む)  
7. その他 \_\_\_\_\_

**【51】 あなたは現在文芸活動を行っていますか。**

1. している                      2. していない

（【51】で「している」と答えた方にお聞きします。）

**【52】 行っている活動について、該当するものすべてに○をつけてください。** 複数回答可

1. 絵画                      2. 小説など執筆活動                      3. 写真撮影                      4. カラオケ  
5. その他 \_\_\_\_\_

**【53】 現在あなたは生活上の楽しみや生きがいを持っていますか。**

1. ある                          2. なし

（【53】で「ある」と答えた方にお聞きします。）

**【54】 生活上の楽しみや生きがいは次のどれですか。** 複数回答可

1. 家族    2. 友人    3. 恋人    4. スポーツ及び文化活動    5. 仕事    6. リハビリ  
7. 障害者運動    8. 旅行    9. パソコン・スマホ活用関連    10. ペット    11. 釣り  
12. パチンコ等の遊戯    13. その他 \_\_\_\_\_

(【54】で「パソコン・スマホ活用関連」と答えた方にお聞きします。)

【55】1日のだいたいの利用時間をお答えください。

1日約( )時間

(【54】で「パソコン・スマホ活用関連」と答えた方にお聞きします。)

【56】どのような目的でパソコン等のIT機器を使用していますか。 複数回答可

1. 仕事
2. インターネット利用による情報収集
3. 音楽や動画を楽しむ
4. ブログやSNS (facebook、Twitter 等) での情報発信
5. その他 \_\_\_\_\_

(【54】で「パソコン・スマホ活用関連」と答えた方にお聞きします。)

【57】パソコンやスマホを操作するときに、どのような方法で操作していますか。

1. 特に特別なことはしていない
2. 指先でも操作できるジョイスティック等を使用
3. 呼気スイッチ等を使っている
4. 音声認識ソフトを利用して操作している
5. ペンや補助具などを使ってキーボードを操作している
6. その他 \_\_\_\_\_

【58】現在テレワーク（在宅や移動先で働くこと）の働き方が広がっていますが、関心がありますか。

1. 関心がある
2. 関心がない

(【58】で「関心がある」と答えた方にお聞きします。)

【59】どのような関心がありますか。

1. 現在、テレワークで仕事している
2. できればやりたい
3. 将来的には検討したい
4. もっと情報がほしい
5. その他 ( \_\_\_\_\_ )

(【58】で「関心がない」と答えた方にお聞きします。)

【60】関心がない理由は次のどれですか。

1. 通勤の方がよい
2. 障害が重くてできると思わない
3. その他

**【61】 昨今、障害者福祉施策も大きく変わろうとしています。そこで今日の行政に期待することは何ですか。** **複数回答可**

1. 経済的保障
2. 社会福祉サービスの充実
3. 就労支援
4. リハビリテーションサービス
5. 差別禁止に関する条例や法律
6. 特にない
7. その他 \_\_\_\_\_

◎その他、沖脊協の会活動についての要望や、この調査についてのご意見等がありましたらお書きください。

以上です。ご協力ありがとうございました。

**本事業は社会福祉振興基金の助成を受けて実施しております。**

## 沖縄県の脊髄損傷者の生活状況に関する実態調査の手引き

沖縄県脊髄損傷者協会

### 【注意事項】

この手引きは、沖縄県の脊髄損傷者の生活状況に関する実態調査に関し、必要な事項について解説しています。

当該調査は、沖縄県に在住する脊髄損傷者で、障害の発生状況、医療、生活、職業と、特異な障害による精神的ケアや専門的で適切なアドバイスが必要にもかかわらず、在宅、病院、施設等で悶々と不安な生活を強いられている脊髄損傷者の状況を明らかにし、福祉の向上、社会参加の促進、生活の質の向上を目指し、調査を通しての集計分析を基に、脊髄損傷者を取り巻く人々が活用できるような、報告書作成の重要な基礎資料になる物で、十分に理解し、又、調査の方法としては、基本的には、県の身体障害者手帳台帳を基にして、調査票を郵送してのアンケート調査になりますが、その他の病院、施設等からの紹介を頂いた方に対しては、直接、本人からの聞き取り調査になる場合がありますので、下記の調査員の心得を十分に理解し、プライバシー保護の為、慎重に行ってください。

### 【1】調査員の心得

- 1) この手引きは、調査に入る前に必ず読んで、対象者から質問を受けた場合は、即座に答えられるようにして下さい。
- 2) この調査は、基本的には調査対象者が自分で記入し、返信してもらうものとしますが、それが不可能な場合、又は調査員が直接聞き取り調査をする場合は調査員が記入しても良い事にする。
- 3) 世帯、或は病院等を訪問した時は、「調査の協力について」の文書を手渡し、調査の趣旨をよく説明した上で協力してもらうよう心がけて下さい。
- 4) 調査員は、調査上知り得た事については、秘密保持にご留意下さい。

### 【2】調査期間

2019年5月1日～2020年2月28日まで。

### 【3】調査対象者

県内在住の脊髄損傷者で、次の者を対象とする。

- 1) 本会会員全員
- 2) その他の関係機関からの情報提供者

### 【4】調査実施上の心得

- 1) 調査対象者は、調査対象者名簿(住所録)に記載し、調査票の回収後はパソコン等へのデータ入力、クロス集計等で、記載されますので、外部に漏れないよう秘密保持に留意する。
- 2) 調査拒否で調査ができない場合は「無回答」扱いとし、データの入力と集計処理をする。
- 3) 調査期間中に本人の転出で調査不能の場合、できるだけ転出年月日、転出場所を調査票に記入し、調査は行わない。



- 4) 調査期間中に本人の死亡で調査不能の場合、できるだけ死亡年月日を調査票に記入し、調査は行わない。
  - 5) 訪問しても、不在の時は「次回の訪問のお知らせ」の用紙に、次回訪問の日時を記入し、できるだけ家族等に手渡し、次回の訪問をして下さい。
- ※2 回訪問して、尚も不在の場合は、「無回答」で処理して下さい。

#### 【5】調査票記入上の注意事項

- 1) 調査票右上の地区名は、各福祉事務所の所在地、例えば沖縄県 10 市と、南部、中部、北部、離島の管轄福祉事務所名を記入して下さい。
- 2) 整理番号の記入は、記入欄の左から、001、002、012 の要領で、調査対象者名簿の右側の番号を記入して下さい。
- 3) 調査員は、直接対面調査となった場合のみ、調査票の最後の欄に調査員の氏名を記入して下さい。

#### 【工程表】

工程項目	5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
調査活動																														
調査票の決定			○																											
関係機関への協力依頼																														
調査対象者のリストアップ																														
調査票の配布・送付																														
調査票の回収																														
訪問調査																														
データ入力・分析・報告																														
調査票データ入力																														
分析																														
調査まとめ																														
報告書作成																														
報告書送付																														
報告書の開催																														

#### 問合せ・調査票返送先

沖縄脊髄損傷者協会事務局 担当：仲根、小倉、砂川  
 〒901-2121 浦添市内間 5-4-3 ハウジングシーサー101  
 Tel：(098) 961-6715 Fax：(098) 961-6716  
 E-mail：[office@okisekikyo.com](mailto:office@okisekikyo.com)

# 沖縄県における脊髄損傷者の 生活状況に関する実態調査報告書 Vol.4

2020年3月

発行

NPO法人 沖縄県脊髄損傷者協会  
(全国脊髄損傷者連合会 沖縄県支部)

〒901-2121

沖縄県浦添市内間5-4-3 (ハウジングシーサー101) TEL098-961-6715 FAX098-961-6716

この事業は、赤い羽根共同募金配分金が充てられています。